

特別支援学校(知的障害)における国語科の指導の充実
～平仮名の指導～



令和3(2021)年3月
栃木県総合教育センター

はじめに

私たちは、言葉によって身近な人の思いを知ったり、コミュニケーションを図ったり、知識や情報を得て理解しそれをもとに思考したりしています。このように、言葉は私たちの生活の基盤となるものであり、豊かな生活を創造していくためには、言葉についての理解は欠かせません。

知的障害のある児童生徒には、話し言葉をもたなかったり、言葉の理解が限られていたり、また、読み書き自体に困難を抱えていたりするなど、言葉の習得に様々な状況が見られます。そのため、国語科の指導においては、身近な人との関わりの中で言葉を聞いたり話したりしながら、進んで言葉に触れ、使おうとする意欲を高めていくことが大切です。特に、言葉の学習の基礎となる文字の読み書きについては、児童生徒の実態を適切に把握し、一人一人の学習上の特性等を踏まえた個に応じた指導を展開することにより、達成感を味わえるようにしながらその習得を目指していくことが重要です。

そこで、栃木県総合教育センターでは、令和元年度から令和2年度の2年間にわたり、特別支援学校(知的障害)における国語科の指導について、特に「平仮名の指導」に焦点を当て、調査研究を行ってきました。この度、その成果として、知的障害のある児童生徒の学習上の特性等を踏まえた、効果的な平仮名の指導内容や指導方法について、本資料にまとめたところです。

各校におかれましては、ぜひ本資料を御活用いただき、児童生徒一人一人の障害の程度や発達の状態等に応じた平仮名の指導を進めることで、国語科の指導の充実をより一層図っていただければ幸いです。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、御指導、御助言を賜りました群馬大学共同教育学部准教授 中村保和先生、並びに、研究協力委員の先生方をはじめ、研究協力校の栃木特別支援学校の先生方に、厚く御礼申し上げます。

令和3(2021)年3月

栃木県総合教育センター所長
大島政春

I 平仮名の指導の充実のために

国語科の指導においては、言葉そのものが学習の対象になります。教師は、その子どもなりの言葉を受け止める関わりを通して、子どもの「伝えたい」という意欲を高め、自分の思いを言葉で表現しようとする態度を養っていくことが大切です。その上で、平仮名の指導においては、子どもが主体的に平仮名を読んだり書いたりできるよう、以下の点に留意して指導を進めていきます。

○子どもの興味・関心のある事柄を題材にする

子どもの興味・関心のある事柄について平仮名で表現することで、子どもは意欲的にその平仮名を読もうとしたり書こうとしたりします。そのため、題材は、子どもが読みたい、書きたいと思えるものであることが大切です。自分の興味・関心のある事柄を平仮名でも表現できることが分かることで平仮名の学習への意欲を高めることができます。そして、読んだり書いたりできる平仮名を、徐々に増やしていくことができます。

○子どもが操作しながら学ぶことができる教材を工夫する

子どもが平仮名を読んだり書いたりできるようになるためには、例えば、「いぬ」という単語は、平仮名の「い」と「ぬ」を順に並べることで構成されていることや、平仮名の「い」は、2本の縦線で構成されていることなどについて理解することが必要です。これらのことは、プリント等で読んだり書いたりすることだけでなく、文字カード等を操作し、視覚や触覚等の多感覚を使いながら学習することで学びを深めることができます。

○子どもと身近な人との関わりの中で平仮名を使う機会を設定する

子どもが平仮名の学習を通して身に付けた力を生活の中でも生かすことができるようにするためには、生活の中で読んだり書いたりする機会を設けるだけでなく、身近な人との関わりの中で、平仮名を使うことで、子どもが「自分の伝えたいことが相手に伝わった。」「相手の伝えたいことが分かった。」と感じられるようにすることが大切です。そのような経験を通して、平仮名を使うことのよさを実感できると、子どもは、生活の中においても主体的に平仮名を読んだり書いたりできるようになります。

《特別寄稿》 「子どもの姿を語るなかで創出される係わり合いの知識」

群馬大学共同教育学部 中村 保和

「特別支援学校(知的障害)における国語科の指導の充実～平仮名の指導～」の企画が栃木県総合教育センター教育相談部の先生方のなかで持ち上がり、以前、算数科に関する同様の冊子の作成に携わらせて頂いた縁から、今回も作成の一端にかかわらせて頂きました。コロナ禍にあって、対面での打ち合わせや協議が叶わないなか、電話やメール、オンライン会議ソフトを用いたパソコン画面によるやりとりを通して、教育相談部の先生方や研究協力委員の先生方と知的障害を有する子どもたちの国語科の指導の充実について語り合えたことは、私にとって刺激的な時間となりました。こうした刺激的な時間を頂いたお礼を込めて、本冊子の成り立ちと意義について触れさせていただきます。

今回のテーマとなる「知的障害のある子どもたちの平仮名の読み書き」について考えることは、目の前の子どもについて思いをめぐらすことだと思えます。特別支援学校に通う子どもたちの平仮名の読み書き(そのあり方)について語り、時に他者と議論するということは、目の前の子どもについて語りることから始まります。目の前の子どもについて思いをめぐらし語りことなしに、こうした子どもたちの平仮名の読み書きについて、そして広く国語科の学びについて考え語りすることはできないだろうと、私は考えています。

教育相談部の先生方をはじめ、実践事例をここに掲載して下さった栃木特別支援学校の長谷部先生と深津先生は、担任となって係わり合いを持った子どもたちについて語りことができます。語っても語り尽くることがないほどに語りができるだろうと思えます。

先生方は学習に関わる様々な子どもたちとの出来事に遭遇し、自身の働きかけを見つめ直すことを通して、それまでの考えを書き換え、自分と子どもとの間に起きた平仮名の読み書きに関する出来事を事実として確定していきました。そうやって、担任したAさんとBさんについて語っていたように私には見えました。ここに登場する子どもたちについて語りができるから、きっと次に会うであろう子どもたちについても語りことができます。すなわち、Aさんとの学習のなかで行った文字カード構成や、Bさんとの学習のなかで行った文の組み立てについて語ったことは、次に担当する子どもたちとの学習について語ることを支え、さらには学習の進め方の段取りや方針を決めていくことを支えていくのだらうと思えます。この冊子の作成に関わる先生方が担当した子どもたちについて語ったことは、同時に、先生方それぞれが自身の教育的係わり合いの知見を自身のなかに整理して蓄積させたことになるのだと思えます。本冊子は、そのようにして目の前の(または以前に担当した)子どもたちとの学習を語ることを土台として先生方のなかに形作られた知識を収録したものです。

この冊子を手を取った読者の方々も、読み進めるなかで目の前の子どもと、今、行っている学習に思いをめぐらし語りしてみてください。その際、本冊子は読者の方々の係わり合いの語りを形作ることを支えます。例えば、本冊子に整理された「文字の学習を始めるにあたって子どものどんな姿を把握してきたのか」、「文字の学習と一言で表されるもののなかにはどんな要素が含まれているのか」といった観点からの語りを生み出します。きっとその語りを通して、子どもとのこれまでの学習の歩みが俯瞰され、これから進むべき行き先を見定めるきっかけが得られます。こうした語りを通して生み出された多くの係わり合いが本冊子に収められた知識を広め、より多くの子どもたちと先生方の学びを作り出すことを願っています。

《調査研究を通して》 「子どもの姿から学んだこと」

栃木特別支援学校 深津 沙緒里

調査研究に取り組む当初、対象児は本校に転入したばかりだったので、実態把握が十分ではない中、どのような学習をどのように進めていけばよいのか、分からないことだらけでした。不安は大きかったですが、多くの先生方から御指導、御助言をいただきながら、学習内容を見直したり、教材を修正したりすることを続けるうちに、子どもの「できた」が一つ一つ増えていく過程を目にすることができるようになりました。

今の実態では難しいのではないかと、思うような課題もありましたが、アプローチの方法を変えたり、教材の提示の仕方を整えたりすることで、少しずつ文の構造や仕組みを理解し、言葉の力を高めることができました。子どもが課題に真剣に取り組む、着実に力を付けていく姿を見るうちに、子どもの限界を大人が決めてはいけないのだということに改めて気付かされました。

2年間の研究で学んだことは、取り組む課題の中で「できた」ことが重要なのではなく、「できた」が生活の中で子どもにどう生かされるのか、ということを常に意識して指導するということです。また、言葉は与えられた課題をこなすことで得られるものではなく、身近な人とのやり取りや相手に伝わったという共感をたくさん積み重ねることで育っていくものだという事、日々の子どもとの関わりの中で教えてもらいました。

目標を設定したり、教材を用意したりする際には、子どもを取り巻く環境を見つめ直し、なおかつ、将来目指す姿を想像しながら取り組むことが大切なのだと思います。

栃木特別支援学校 長谷部 康太

2年間の研究における、対象児の成長を通して多くのことを学ぶことができました。その中でも特に大切だと感じたことを紹介したいと思います。

指導当初、対象児は用意した教材に興味を示すことが少なく、集中して取り組むことが難しい場面もありました。そこで実態把握を丁寧に行い、対象児の好きなことや興味のあることを教材の中に取り入れていきました。興味のある教材を使用することで学習に意欲的になり集中して学習に取り組めるようになりました。

生活の中で学習の成果が生かされた場面も増えました。例えば、休み時間に自分から文字カードを並べて好きな言葉を表現したり、平仮名に真似た形を書こうとしたりすることがありました。興味のある教材を用いることで、文字そのものにも関心を持ち、平仮名を用いれば自分の好きなことを表現できると、気付き始めているように感じました。学習してきたことが、自分の好きなことを表現したり、気持ちを伝えたりする際に役立つと実感することで、もっと学習してみようという気持ちが生まれると思います。児童が自らの学びに気付き、日々の生活に生かしていこうとする意欲や態度を大切にしながら教材を工夫していくことが必要だと感じました。

このような対象児の変容から、興味をもって意欲的に取り組める教材を提示することや、児童自らがその学習に取り組む意味の分かる内容にすることの大切さを学びました。学習していることがどんな場面で生かされていくのかを、児童自身が理解していくことが学習に対する意欲につながると思います。この学びを生かして、今後も児童と丁寧に関わり、児童が自分から学びたいという気持ちをもって学習できるように教材や学習内容を工夫しながら一緒に学んでいきたいと思っています。

Ⅱ 平仮名の指導

1 平仮名の指導を始める前に

知的障害のある子どもは、その障害の程度や発達の状態等により学力や学習状況が異なり、身に付いている力も様々です。そのため、平仮名の指導を始める前に、子どもに平仮名の読み書きの基礎となる力が身に付いているか、実態を把握することが大切です。そこで、子どもの実態を把握する視点を、「言葉の理解と使い方の様子」と「基礎となる学習の様子」として整理しました。

<言葉の理解と使い方の様子>

平仮名の指導を始める前に、子どもがどのような言葉を理解し、身近な人との関わりの中で、どのように使っているか、そして、身近にある絵や記号、平仮名が表す内容に興味・関心をもっているか、実態を把握します。

次に示すのは、日常生活や学習場面において見られる子どもの姿の例です。子どもの実態を把握する際の参考としてください。

○事物や事柄と言葉とを結び付けている。

- ・身の回りのものや日常生活の中で繰り返される事柄と言葉とを結び付けて理解している。



○言葉でのやり取りをしようとしている。

- ・身近な人の話し掛けに関心をもち、話し手を見たり、表情や身振り、音声などで応じたりする。
- ・自分の伝えたいことを思い浮かべ、表情や身振り、音声などで表す。



○絵や記号、平仮名が表す内容に興味・関心をもっている。

- ・絵本などを見て、知っている事物などを指さす。
- ・絵や記号などの意味が分かり、行動する。



- ・平仮名に興味をもち、読んでもらおうとする。



＜基礎となる学習の様子＞

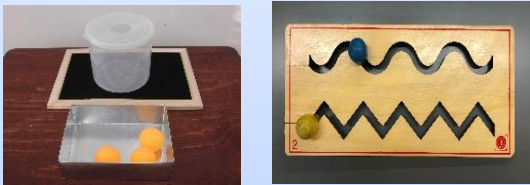
平仮名の学習の中で、平仮名を見分けたり、ものの名称とそれを表す平仮名を結び付けたり、手首や肘、腕の運動を調整し、手元を見て書いたりするためには、その基礎となる力が身に付いていることが必要です。基礎となる力は、学習の中で身に付けていきますが、日常生活における遊びの中でも育まれていきます。そのため、学習場面だけでなく、日常生活においても子どもの実態を把握することが大切です。

次に示すのは、基礎となる学習において取り組まれている課題の例と、遊びの場面で見られる子どもの姿の例です。子どもの実態を把握する際の参考としてください。

目と手の使い方の学習

＜ねらい＞

- ・目と手を協応させてものを操作する。



- ・ミニカーを見ながら箱から出したり入れたりしている。



形の学習

＜ねらい＞

- ・ものの形に注目して見分ける。



- ・同じ形の積み木を積んでいる。



仲間分けの学習

＜ねらい＞

- ・同じもの、違うもので仲間分けする。



- ・おもちゃ箱から動物のぬいぐるみを探して集めている。



方向や位置の学習

＜ねらい＞

- ・平面上で線に沿ってものを動かしたり、方向や位置を見分けたりする。



- ・道路に沿ってミニカーを走らせている。



2 平仮名の指導の指導内容

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領小学部国語科の1～3段階で扱われている平仮名の指導について、指導内容を整理しました。本資料では、「読む学習」と「書く学習」とに分けて指導例を示していますが、子どもの実態に応じて関連させながら指導内容を設定し、指導を進めることが大切です。

<読む学習>

平仮名の導入の学習から簡単な文での表現の学習までを、「単語の学習」と「文の学習」とに分けて指導例を示しました。読む学習においては、子どもの興味・関心のあるものの名称や事柄について、聞いたり、話したりする活動を行うようにします。その中で、子どもが言葉で表現したことを平仮名でも表現していくことで、子どもが単語や文の表す内容を十分理解して読むことができるようになっていきます。

○単語の学習

題 材	指導内容	掲載頁
●清音のみの単語 例：「いぬ」「うし」	・絵カードとその名称を表す単語カードとを合わせる。	P10～
	・文字カードを並べて単語をつくって読む。	P12～
●濁音・半濁音を含む単語 例：「ぶた」「ふた」	・絵カードとその名称を表す単語カードとを合わせる。	P16～
	・文字カードを並べて単語をつくって読む。	P18～
	・清音に濁点・半濁点を付けて単語をつくって読む。 事例の紹介①	P20～
●促音を含む単語 例：「ねっこ」「ねこ」	・絵カードとその名称を表す単語カードとを合わせる。	P22～
	・文字カードを並べて単語をつくって読む。	P24～
	・促音を加えて単語をつくって読む。	P26～
●拗音を含む単語 例：「おもちゃ」「おもち」 「いしゃ」「いしや」	・絵カードとその名称を表す単語カードとを合わせる。	P28～
	・文字カードを並べて単語をつくって読む。	P30～

○文の学習

題 材	指導内容	掲載頁
●助詞を含まない文 例：「あかい まる」	・文を読んで具体物を操作する。 事例の紹介②	P34～
	・文をつかって読む。	P36～
●2語文 例：「りんごを たべる」	・文を読んで動作で表現する。	P38～
	・文をつかって読む。	P40～
●3語文 例：「ぼくが りんごを たべる」 他	・文を読んでカードを操作する。	P42
	・文をつかって読む。	P43
	・「だれが」「なにを」を考えて文をつかって読む。	P44～
	・自分が経験したことの文をつかって読んだり書いたりする。 事例の紹介③	P46～
	・文を読んで質問に答える。 事例の紹介④	P48～

<書く学習>

具体物を操作しながら書く力を身に付ける指導例や運筆に親しんだり平仮名を書いたりする指導例を示しました。

平仮名を書くためには、書こうとする平仮名を正しく読むことができ、それが表す内容を理解できていることが大切です。そのため、書く学習を行う中でも、ものの名称や事柄について聞いたり、話したり、読んだりしながら、平仮名に対する興味・関心を深め、平仮名として表現しようとする意欲を伸ばすようにしていきます。

題 材	指導内容	掲載頁
●めいろ	・線に沿って具体物を動かす。 事例の紹介⑤	P52～
●ぬりえ	・枠を付けて輪郭を意識してぬる。	P54～
●いろいろな線や形	・いろいろな線を書く。 事例の紹介⑥	P56～
●平仮名をつくる	・文字片を重ねて平仮名の形をつくる。	P60～
●平仮名を書く	・平仮名をなぞったり書いたりする。	P62～



3 指導例

<指導例の見方>

本指導例についての解説

(1) 読む学習
① 単語の学習

題材	清音のみの単語
ねらい	絵とその名称を表す単語とを結び付ける。
指導内容	絵カードとその名称を表す単語カードとを合わせる。例：「いぬ」「うし」。

・絵カードを見て単語カードを選ぶ学習と単語を読んで絵カードを選ぶ学習の両方に取り組みます。絵カードを見て単語カードを選ぶ学習から始め、徐々に単語カードを見て絵カードを選ぶ学習に取り組み、ものの名称を語形として理解できるようにします。

【絵カードを見て単語カードを選ぶ(見本あり)】

(1) 絵カードの名称を答える。

- ・提示枠に絵カードを提示し、「これは何かな？」と子どもにも尋ねる。
- ・子どもはその名称を答える。

(2) 単語カードを選ぶ。

- ・選択枠に単語カードを提示し、「『いぬ』は、どっちなかな？」と子どもにも尋ねる。
- ・子どもは単語カードを選び、回答枠に置く。

(3) 単語カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは単語カードを裏返し、答え合わせをする。
- ・子どもと一緒に、見本の文字を一文字ずつ指さしながら読む。

教師と子どもの活動

・絵カードは、子どもが早く知っていて、興味・関心のあるものを用いる。

・提示枠の上に絵カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

・単語カードは、子どもが早く知っていて、興味・関心のあるものを用いる。

・提示枠の上に単語カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

指導上の配慮事項 (教師の関わり、教材の工夫など)

(見本なし)

- ・子どもが、見本がある状況で確実にできるようになったら、見本がない状況でも同様の手順で取り組みます。
- ・文字の見本がない状況に変更する場合は、見本がなくとも取り組めそうか、子どもにも確認します。子どもが不安そうときは、見本がある状況で学習を続けます。

<単語カードの提示の仕方工夫>

- ・左の写真のように、複数枚の単語カードの中に正解のカードを1枚のみ提示することで、正解の単語カードと他のカードの違いが際立ち、字形の違いが見比べやすくなります。

指導の発展例

・単語カードは、子どもが早く知っていて、興味・関心のあるものを用いる。

・提示枠の上に単語カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

事例の紹介

事例紹介①

<興味・関心のある事例を題材に、平仮名で表現しようとする意欲を高めたAさん>

・Aさんは、日常生活においてよく知っている野菜や動物の名称などを題材に、平仮名の字面に取り組みました。担任の先生は、Aさんがさらに自分から平仮名を使って表現できるようになってほしいと思っていました。

ある日の休み時間、Aさんは、文字カードを並べて楽しそうに遊んでいました。担任の先生がその文字を見ると、「いぬき」「うしむき」「とろき」→車が大好きなAさんは、車のナンバープレートの平仮名表記の地名も、文字カードを並べてつくっていました。

この様子から、題材のヒントを得た担任の先生は、車のナンバープレートを使った教材を用意し、Aさんと車のナンバープレートの地名をつくる字面に取り組みました。

Aさんは、意欲的に字面に取り組み、清音の平仮名や濁音の平仮名など、読もことのできる平仮名が増え、自分から平仮名を使って好きな言葉表現するようになりました。

●使用される教材の名称

- ・提示枠：教師が課題（絵カード等）を提示する枠
- ・選択枠：文字カード等を選択する枠
- ・回答枠：正解のカード等を置く枠
- ・文字枠：文字カードを置く枠
- ・音節枠：平仮名の読みに合わせてブロック等を置く枠
- ・行 枠：文字カードを置く行ごとの枠
- ・文型枠：単語カードを置く枠

●単語の学習での文字カードの提示の仕方

- ・使う文字カードを並び替える：「いぬ」の「い」と「ぬ」のみを提示する。
- ・複数の文字カードから選ぶ：「いぬ」の「い」と「ぬ」以外にも複数の文字カードを提示する。
- ・使う文字が含まれる行枠から選ぶ：「いぬ」の「い」や「ぬ」をア行やナ行の枠で提示する。
- ・50音表から選ぶ：清音を50音表から選べるよう提示する。

(1) 読む学習

① 単語の学習

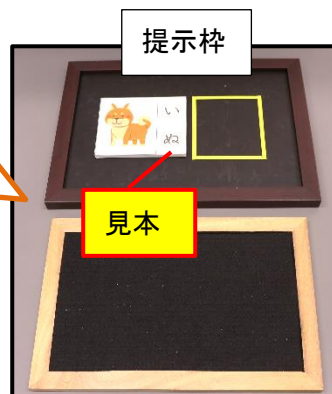
題 材	清音のみの単語
ねらい	絵とその名称を表す単語とを結び付ける。
指導内容	絵カードとその名称を表す単語カードとを合わせる。 例：「いぬ」「うし」

- ・絵カードを見て単語カードを選ぶ学習と単語を読んで絵カードを選ぶ学習の両方に取り組みます。絵カードを見て単語カードを選ぶ学習から始め、徐々に単語カードを読んで絵カードを選ぶ学習に取り組むことで、ものの名称を語形として理解できるようにします。

【絵カードを見て単語カードを選ぶ】(見本あり)

(1) 絵カードの名称を答える。

- ・提示枠に絵カードを提示し、「これは何か？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもはその名称を答える。



- ・絵カードは、子どもがよく知っていて、興味・関心のあるものを用いる。
- ・提示枠の上に絵カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

(2) 単語カードを選ぶ。

- ・選択枠に単語カードを提示し、「『いぬ』は、どっちかな？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもは単語カードを選び、回答枠に置く。



- ・単語は、字形の違いがはっきりしているものを用意する。
- ・単語カードは、正解が左右どちらかに偏ることがないように提示する。
- ・徐々に、絵カードを指さしながら「これは、どっちかな？」と子どもに尋ね、単語カードを選べるようにする。

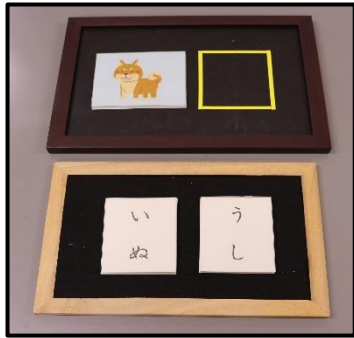
(3) 単語カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは単語カードを裏返し、答え合わせをする。
- ・子どもと一緒に、見本の文字を一文字ずつ指さしながら読む。



- ・単語カードの裏側に正解の絵を付けておくことで、子どもは自分で正解を確認できる。

(見本なし)



- ・子どもが、見本がある状況で確実にできるようになったら、見本がない状況でも同様の手順で取り組みます。
- ・文字の見本がない状況に変更する場合は、見本がなくても取り組みそうか、子どもにも確認します。子どもが不安そうなときは、見本がある状況で学習を続けます。



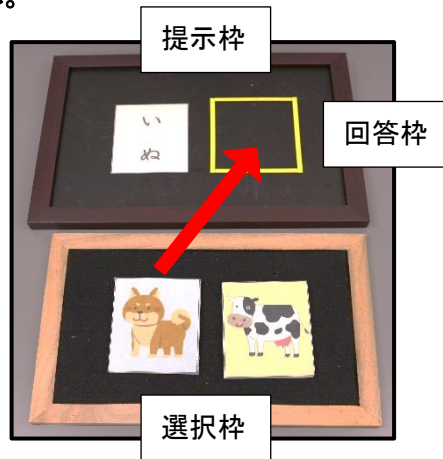
<単語カードの提示の仕方の工夫>

- ・左の写真のように、複数枚の単語カードの中に正解のカードを1枚のみ提示することで、正解の単語カードと他のカードの違いが際立ち、字形の違いが見比べやすくなります。

【単語を読んで絵カードを選ぶ】(見本なし)

(1) 単語を読んで絵カードを選ぶ。

- ・提示枠に単語カードを提示し、「これは何か？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもは、単語を読んで絵カードを選び、回答枠に置く。



- ・子どもが迷っている場合は、教師と一緒に単語を読み、絵カードを選ぶことができるようにする。

(2) 絵カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。
- ・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



- ・絵カードの裏側に正解の単語を付けておくことで、子どもは自分で正解を確認できる。

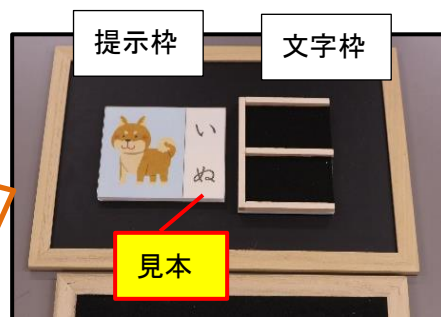
題 材	清音のみの単語
ねらい	清音の平仮名とその音とを結び付けて読む。
指導内容	文字カードを並べて単語をつかって読む。 例：「いぬ」

- ・使う文字カードを並び替えて単語をつかって読む学習から始め、徐々に複数の文字カードから必要な文字カードを選ぶようにします。複数の文字カードから選ぶことができれば、使う文字が含まれる行枠から文字カードを選ぶようにします。子どもの学習の様子に応じて、選択する行枠を増やしていき、徐々に50音表から文字カードを選ぶようにします。

【使う文字カードを並び替える】(見本あり)

(1) 絵カードの名称を答える。

- ・提示枠に絵カードを提示し、「これは何かな？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもはその名称を答える。

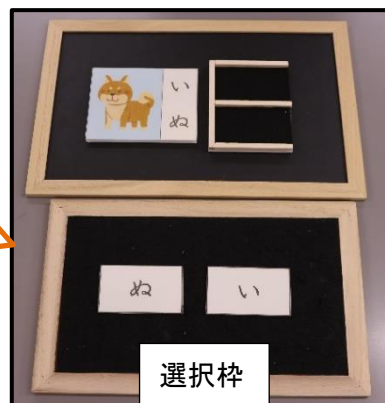


- ・絵カードは、子どもがよく知っていて、興味・関心のあるものを用いる。
- ・提示枠の上に絵カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

- ・文字枠を設けることで、何文字の単語をつくるのかが分かりやすくする。

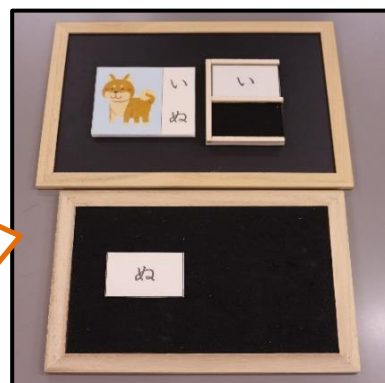
(2) 文字カードを並べて単語をつくる。

- ・選択枠に文字カードを提示し、「『いぬ』をつくらせてみよう。」と子どもに伝える。



- ・始めは、使用する文字カードのみを選択枠に提示する。徐々に、提示する文字カードの数を増やしていく。

- ・子どもは、文字カードを文字枠に並べる。
- ・子どもが一文字置くごとに、教師がその文字を読む。



- ・子どもが置いた文字に音声を添えることで、文字と音を結び付けることができるようにする。

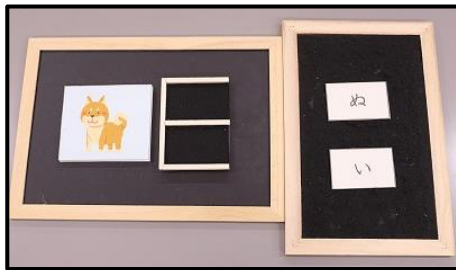
(3) 見本と見比べて正解を確認し、読む。

- ・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



- ・並べた文字を、「い」、「ぬ」などと一音ずつ指さしながら読む。徐々に「いぬ」などと、単語として読むことができるようにする。

(見本なし)



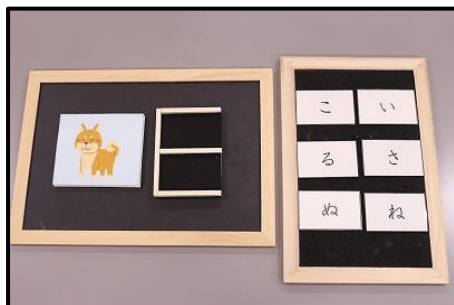
- ・子どもが、見本がある状況で確実にできるようになったら、見本がない状況でも同様の手順で取り組みます。
- ・子どもの実態に応じて、始めから「いぬ」と並べるのではなく、「いぬ」の「ぬ」を文字枠に置いておき、「い」だけ並べるようにするなど、子どもが確実にできるところから学習を進めるようにします。

<正解を絵で確認する工夫>



- ・正しく並べられた文字カードを裏返すと、提示枠の絵カードと同じ絵が完成します。このような工夫をすることで、子どもが正解を実感できるようにします。

【複数の文字カードから選ぶ】

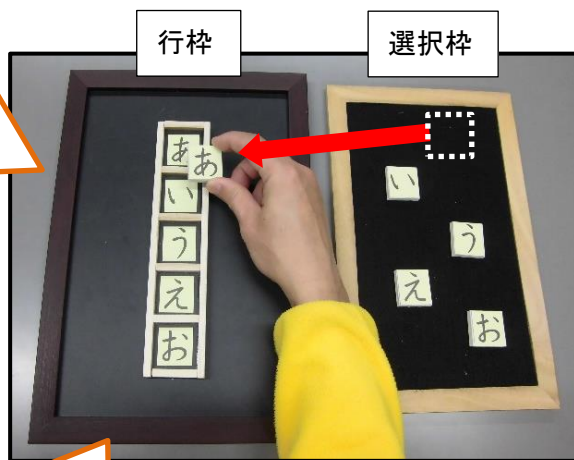


- ・徐々に選択肢の文字カードを増やし、複数の文字カードの中から文字を見分けて選ぶことができますようにします。既習の文字や形の似ている文字などから正解の文字を見分けることができますようにします。

【使う文字が含まれる行枠から選ぶ】（見本なし）

（1）学習に使う文字が含まれる行の文字カードを並べて読む。

- ・ 選択枠に文字カードを提示し、『あいうえお』の文字を順番に並べてみよう。』と子どもに伝える。

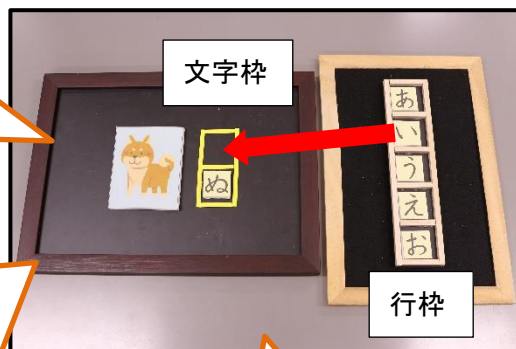


- ・ 文字カードを行ごとに並べる行枠を用意する。
- ・ 始めは枠の中に見本となる文字を貼り、子どもが迷わず並べることができるようにする。徐々に見本なしでも取り組むようにする。
- ・ 「ア行」という言葉も伝え、50音表の理解につなげる。

- ・ 子どもは、ア行の文字カードを行枠に並べる。
- ・ 並べ終わったら、子どもと一緒に一文字ずつ指さしながら読む。

（2）行枠から文字カードを選んで単語をつくる。

- ・ 絵カードの名称を子どもと確認する。



- ・ 行枠を提示し、『『いぬ』をつくってみよう。』と子どもに伝える。
- ・ 子どもは、文字カードを文字枠に並べる。

- ・ 子どもが一文字置くごとに、教師がその文字を読む。

- ・ 絵カードは、子どもがよく知っていて、興味・関心のあるものを用いる。

- ・ 始めは、文字枠に「ぬ」は並べておく。子どもが確実に文字カードを選ぶことができれば、ナ行の枠から「ぬ」の文字カードを選べるようにする。



- ・ 子どもが置いた文字に音声を添えることで、文字と音を結び付けることができるようにする。

（3）絵カードを裏返して正解を確認し、読む。

【50音表から選ぶ】（見本あり）

（1）50音表から文字カードを選んで単語をつくる。

- ・絵カードの名称を子どもと確認する。
- ・「50音表から文字カードを選んで『いぬ』をつくってみよう。」と子どもに伝える。



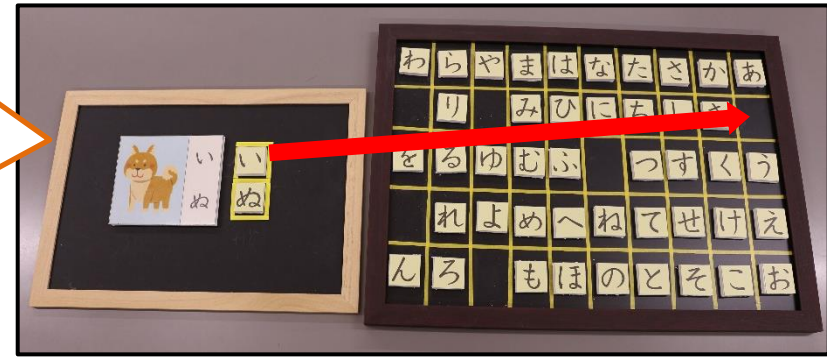
- ・子どもは、文字枠に文字カードを並べる。
- ・子どもが、一文字置くごとに、教師がその文字を読む。

- ・子どもが50音表から文字を見付けることが難しい場合は、「ア行を見てごらん。」などと言葉掛けしたり、文字カードを指さしたりし、子どもが選べるようにする。

（2）見本と見比べて正解を確認し、読む。

（3）文字カードを50音表に戻す。

- ・「文字カードを元の場所に戻そう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、50音表の元の位置に文字カードに戻す。



- ・元の位置に戻す活動を行うことで、50音表に文字がどのように配列されているか、その規則性を理解することにつながる。
- ・どこに戻せばよいか迷っている場合は、行の位置を伝えたり、戻す位置を指さしたりする。



＜文字数の多い単語をつくる場合＞

- ・3文字の単語をつくる場合、「位置」で文字カードを並べる場所を判断することができます。4文字の単語をつくる場合、文字カードを並べる「順序」を考えることになるため、数の「順序」の理解が必要になります。子どもの実態を把握しながら学習を進めます。

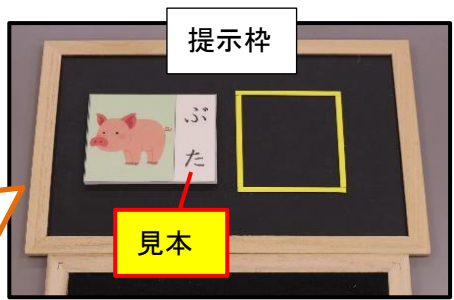
題 材	濁音・半濁音を含む単語
ねらい	絵とその名称を表す単語とを結び付ける。
指導内容	絵カードとその名称を表す単語カードとを合わせる。 例：「ぶた」「ふた」

・絵カードを見て単語カードを選ぶ学習と濁点・半濁点の有無で単語の意味が変わる2枚の絵カードを見てその単語カードを組み合わせる学習に取り組みます。単語を読んで絵カードを選ぶ学習にも取り組み、濁音・半濁音を含むものの名称を語形として理解できるようにします。(P10～「清音のみの単語」参照)

【絵カードを見て単語カードを選ぶ】(見本あり)

(1) 絵カードの名称を答える。

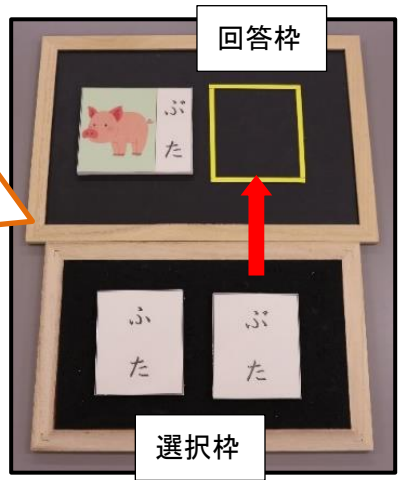
- ・提示枠に絵カードを提示し、「これは何かな？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもはその名称を答える。



- ・絵カードは、子どもがよく知っていて、興味・関心のあるものを用いる。
- ・提示枠の上に絵カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

(2) 単語カードを選ぶ。

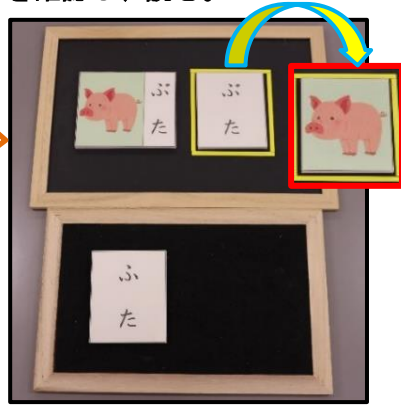
- ・選択枠に単語カードを提示し、『『ぶた』は、どっちかな？』と子どもに尋ねる。
- ・子どもは単語カードを選び、回答枠に置く。



- ・子どもが迷っている場合は、『『てんてん』が付いているのが、『ぶた』だね。』などと言葉掛けし、濁点の有無に注目できるようにする。

(3) 単語カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは単語カードを裏返し、答え合わせをする。
- ・子どもと一緒に、見本の文字を一文字ずつ指さしながら読む。



- ・単語カードの裏面に正解の絵を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。

【2枚の絵カードと単語カードを組み合わせる】(見本なし)

(1) 2枚の絵カードの名称を答える。

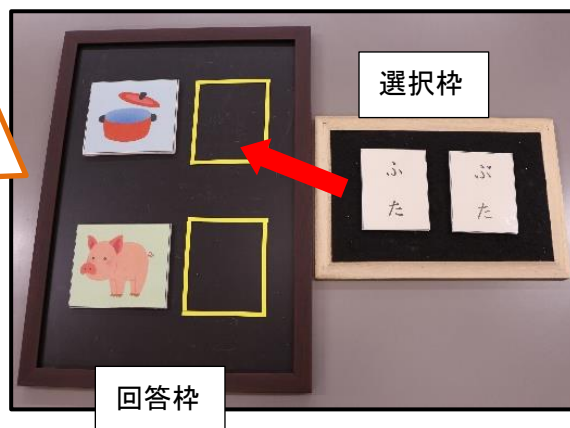
- ・提示枠の2枚の絵カードを提示し、「これは何かな？」とそれぞれの名称を子どもに尋ねる。
- ・子どもはそれぞれの名称を答える。



- ・濁点・半濁点の有無で単語の意味が変わる2枚の絵カードを用意する。

(2) 絵カードと単語カードを組み合わせる。

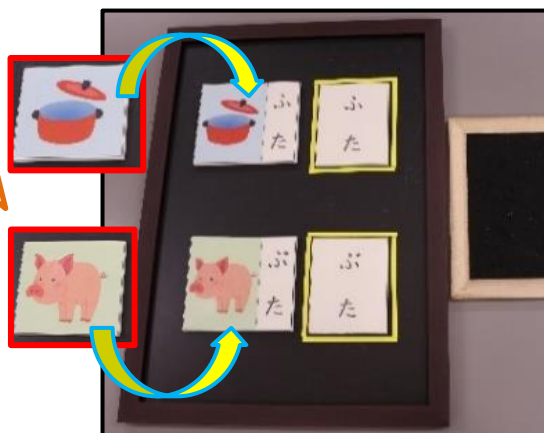
- ・選択枠に単語カードを提示し、「絵カードと組み合わせてみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、それぞれの回答枠に単語カードを置く。



- ・提示するカードの位置が、いつも同じ位置にならないようにする。

(3) 2枚の絵カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。
- ・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



- ・絵カードの裏面に正解の単語を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。
- ・2枚の単語カードを見比べて、濁音の有無で読み方やその意味が変わることを確認する。

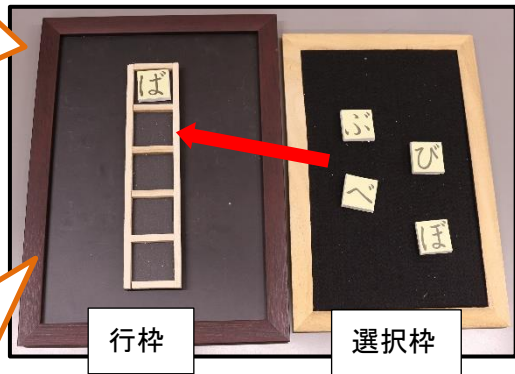
題 材	濁音・半濁音を含む単語
ねらい	濁音・半濁音とその音とを結び付けて読む。
指導内容	文字カードを並べて単語をつかって読む。 例：「ぶた」

・濁音・半濁音を含む文字カードを並べて単語をつかって読む学習に取り組みます。指導の流れは、「清音のみの単語」の場合と同様です。子どもの実態によって、少ない文字カードから文字を選ぶようにします。(P12～「清音のみの単語」参照)

【50音表と使う文字が含まれる行枠から選ぶ】(見本なし)

(1) 学習に使う文字が含まれる行の文字カードを並べて読む。

・選択枠に文字カードを提示し、『『ばびぶべぼ』の文字を順番に並べてみよう。』と子どもに伝える。

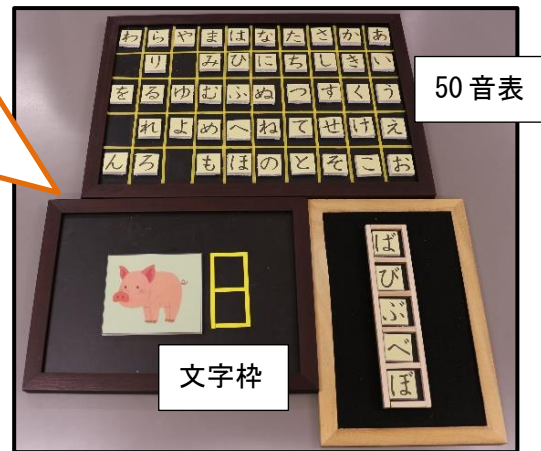


・文字カードを行ごとに並べる行枠を用意する。
・始めは、枠の中に見本となる文字を貼り、子どもが迷わずに並べることができるようにする。(P14～「清音のみの単語」参照)

・子どもは、バ行の文字カードを行枠に並べる。
・並べ終わったら、子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。

(2) 行枠と50音表から文字カードを選んで単語をつくる。

・絵カードの名称を子どもと確認する。
・行枠と50音表を提示し、『『ぶた』をつくってみよう。』と子どもに伝える。

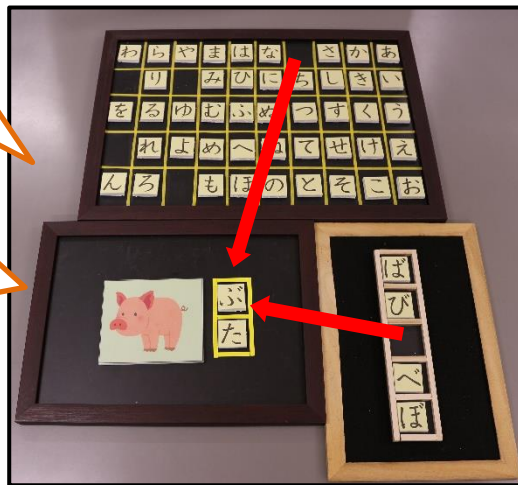


・絵カードは、子どもがよく知っていて、興味・関心のあるものを用いる。

・文字枠を設けることで、何文字の単語をつくるのかが分かりやすくする。

- ・子どもは、文字カードを選び、文字枠に並べる。

- ・子どもが一文字置くごとに、教師がその文字を読む。

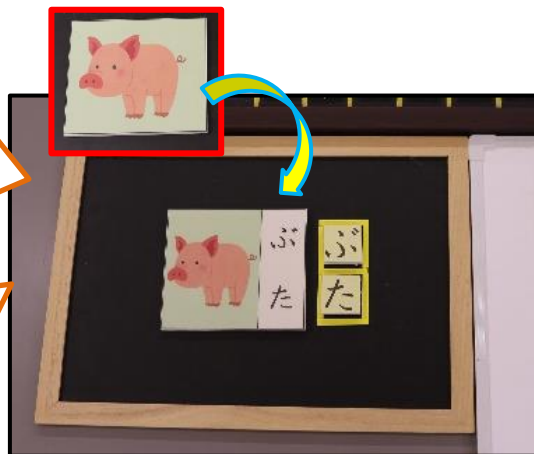


- ・子どもが置いた文字に音声を添えることで、文字と音を結び付けることができるようにする。
- ・子どもが「ふ」の文字カードを置いた場合は、『てんてん』が付いているのはどれかな?』などと言葉掛けし、濁点の有無に注目できるようにする。

(3) 絵カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。

- ・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



- ・絵カードの裏面に単語を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。



【50音表と濁音・半濁音表から選ぶ】

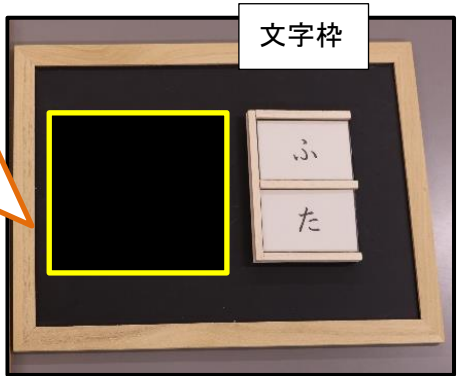
- ・読むことのできる濁音や半濁音が増えてきたら、濁音・半濁音表から文字を選べるようにしていきます。
- ・単語をつくった後、使った文字カードを元の位置に戻す活動を行うことで、50音表や濁音・半濁音表に文字がどのように配列されているか、その規則性を理解することにつながります。

題 材	濁音・半濁音を含む単語
ねらい	濁音・半濁音の読み方と表記の仕方が分かる。
指導内容	清音に濁点・半濁点を付けて単語をつかって読む。 例：「ぶた」「ふた」

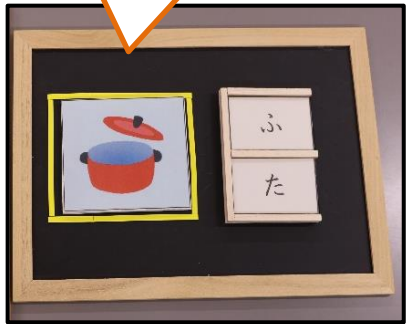
・清音の単語に濁点や半濁点を付けて、濁音や半濁音を含む単語をつかって読む学習に取り組みます。濁点や半濁点の有無で、単語の読み方や意味が変わることを理解できるようにします。

(1) 文字枠に提示された単語を読む。

・文字枠に単語を提示し、「何と書いてあるかな？」と子どもに尋ねる。
 ・子どもは、提示された単語を読む。

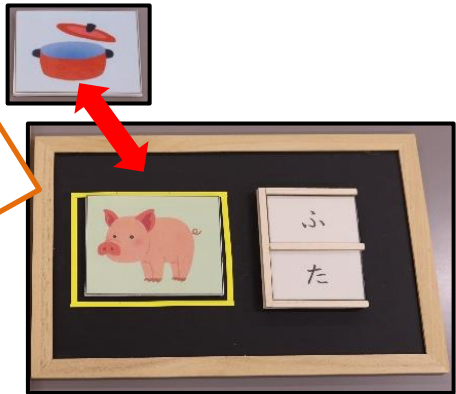


・子どもが「ふた」と答えたら、「ふた」の絵カードを提示枠に置く。

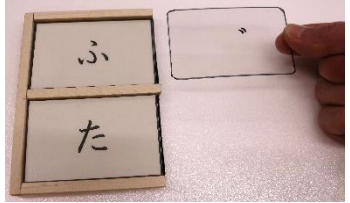


(2) 文字枠の単語に、濁点カードをのせる。

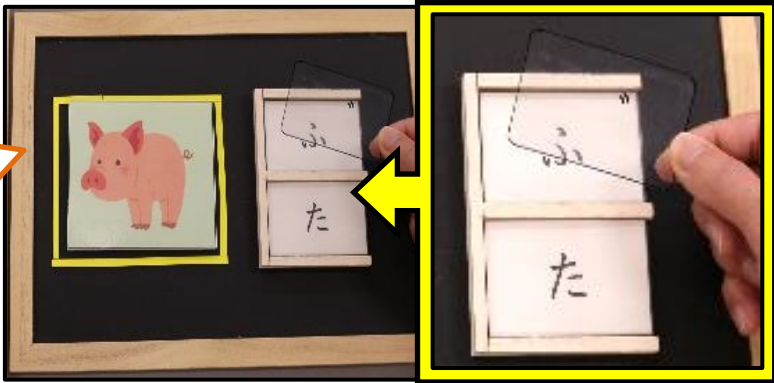
・「ふた」の絵カードを「ぶた」の絵カードに変える。
 ・「てんてんを付けて、『ぶた』にしてみよう。」と伝え、子どもに濁点カードを渡す。



・濁点・半濁点カードは、透明のシートで用意すると、清音の文字に重ねることで濁点や半濁点を付けることができる。



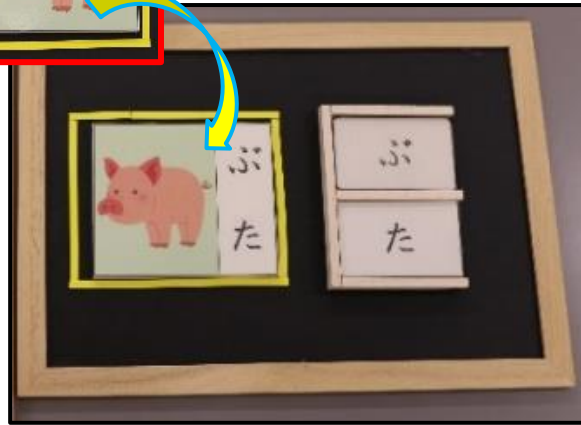
・子どもは、濁点カードを「ふ」の文字の上に重ねる。



(3) 絵カードを裏返して正解を確認し、読む。

・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。

・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



・絵カードの裏面に単語を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。

事例の紹介①

＜興味・関心のある事柄を題材に、平仮名で表現しようとする意欲を高めたAさん＞

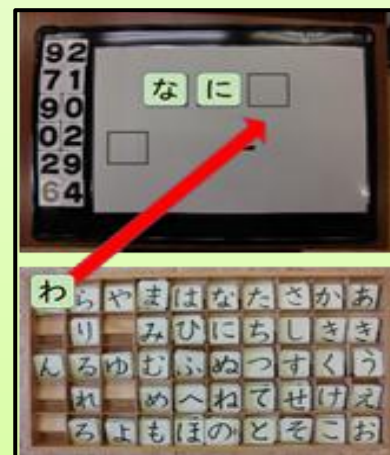
・Aさんは、日常生活においてよく知っている野菜や動物の名前などを題材に、平仮名の学習に取り組んでいました。担任の先生は、Aさんがさらに自分から平仮名を使って表現できるようになってほしいと思っていました。

ある日の休み時間、Aさんは、文字カードを並べて楽しそうに遊んでいました。担任の先生がその文字を見ると、「いわき」「なにわ」「とちき」…車が大好きなAさんは、車のナンバープレートの平仮名表記の地名を、文字カードを並べてつくっていました。



この様子から、題材のヒントを得た担任の先生は、車のナンバープレートを模した教材を用意し、Aさんと車のナンバープレートの地名をつくる学習に取り組みました。

Aさんは、意欲的に学習に取り組み、清音の平仮名や濁音の平仮名など、読むことのできる平仮名が増え、自分から平仮名を使って好きな言葉表現できるようになりました。



題 材	促音を含む単語	
ねらい	絵とその名称を表す単語とを結び付ける。	
指導内容	絵カードとその名称を表す単語カードとを合わせる。	例：「ねっこ」「ねこ」

- ・絵カードを見て単語カードを選ぶ学習と促音の有無で単語の意味が変わる2枚の絵カードを見てその単語カードを組み合わせる学習に取り組みます。単語を読んで絵カードを選ぶ学習にも取り組み、促音を含むものの名称を語形として理解できるようにします。(P10～「清音のみの単語」参照)

【絵カードを見て単語カードを選ぶ】(見本なし)

(1) 絵カードの名称を確認する。

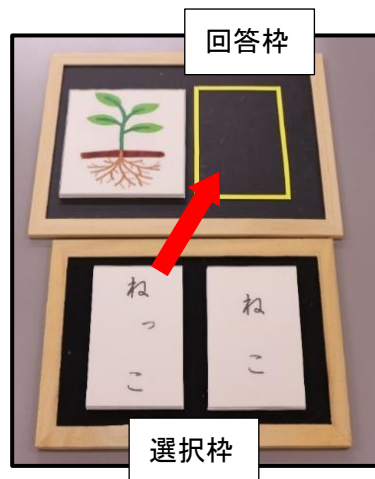
- ・絵カードの名称を子どもと確認する。



- ・提示枠の上に絵カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

(2) 単語カードを選ぶ。

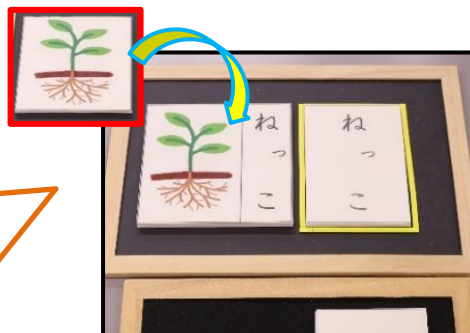
- ・選択枠に単語カードを提示し、「『ねっこ』は、どっちかな？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもは、単語カードを選び、回答枠に置く。



- ・子どもが迷っている場合は、「小さい『っ』があるのが『ねっこ』だね。」などと言葉掛けし、促音に注目できるようにする。

(3) 絵カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは絵カードを裏返し、答え合わせをする。
- ・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



- ・絵カードの裏面に正解の単語を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。

【2枚の絵カードと単語カードを組み合わせる】(見本なし)

(1) 2枚の絵カードの名称を確認する。

- ・それぞれの絵カードの名称を子どもと確認する。



- ・促音の有無で単語の意味が変わる2枚の絵カードを用意する。

(2) 絵カードと単語カードを組み合わせる。

- ・選択枠に単語カードを提示し、「絵カードと組み合わせてみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、それぞれの回答枠に単語カードを置く。



- ・提示するカードの位置が、いつも同じ位置にならないようにする。

(3) 2枚の絵カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。
- ・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



- ・絵カードの裏面に正解の単語を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。
- ・2枚の単語カードを見比べて、促音が入ると読み方やその意味が変わることを確認する。

題 材	促音を含む単語
ねらい	促音を含む単語の読み方と表記の仕方が分かる。
指導内容	文字カードを並べて単語をつかって読む。 例：「ねっこ」

・ 促音を含む文字カードを並べて単語をつかって読む学習に取り組みます。音節枠にブロックを置きながら読むことで、促音は「つまる音」として発音しないことを理解できるようにします。

(見本なし)

(1) 絵カードの名称を確認する。

・ 絵カードの名称を子どもと確認する。



・ 提示枠の上に絵カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

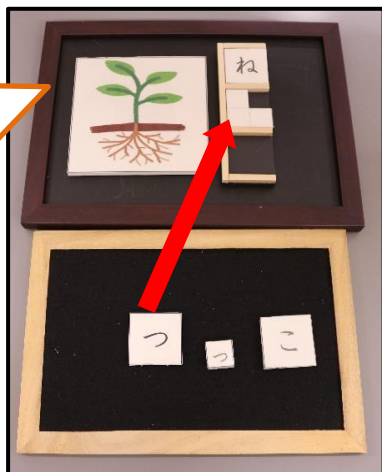
(2) 文字カードを並べて単語をつくる。

・ 選択枠に文字カードを提示し、『ねっこ』をつくらせよう。と子どもに伝える。

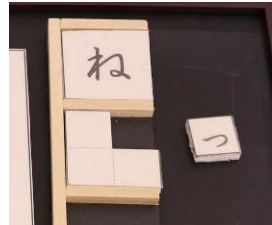


・ 文字枠を設けることで、何文字の単語をつくるのか分かりやすくする。
・ 促音と清音の「つ」を見比べられるよう、カードの大きさを変えて提示する。

・ 子どもは、文字カードを文字枠に並べる。
・ 子どもが一文字置くごとに、教師がその文字を読む。



・ 文字枠の促音が入る位置には、仕切りを置き、促音の文字カードがぴったりと入るようにしておく。



・ 子どもが迷っている場合は、「小さい『っ』はどこに入るかな？」などと言葉掛けする。

・ 仕切りは徐々に外して並べられるようにする。その際、外してもよいか、子どもに確認する。

(3) 絵カードを裏返し、正解を確認する。

- ・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。



(4) 音節枠にブロックを置き、読む。

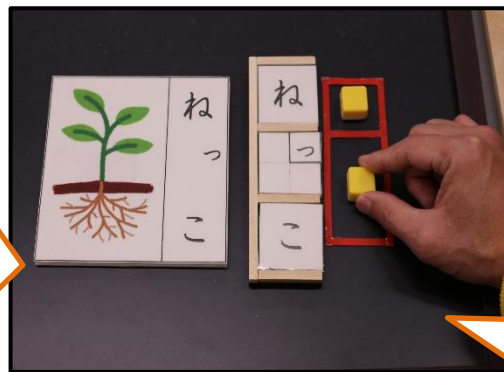
- ・音節枠を文字枠の横に置き、選択枠にブロックを並べる。
- ・「ブロックを置きながら読んでみよう。」と子どもに伝える。



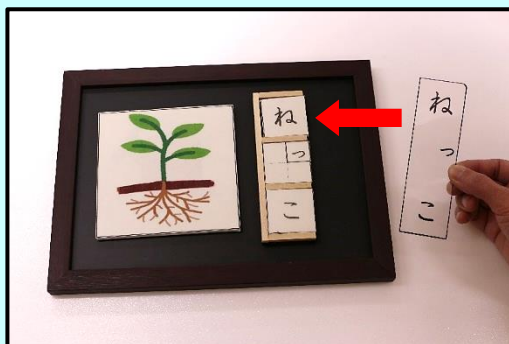
- ・算数ブロックを使っているが、マグネットや積み木などでもよい。

- ・ブロックは2個用意する。促音の音節枠にブロックを置かないことで、促音の「つまる音」は発音しないことを確認する。また、教師が音声を添えることで、促音を含む単語の読み方を理解できるようにする。

- ・子どもは、ブロックを音節枠に置く。
- ・子どもが音節枠にブロックを置く動きに合わせて、教師が一音ずつ読む。



- ・子どもがブロックをすべて置いたら、一文字ずつ指さしながら一緒に読む。



<正解を確認する工夫>

- ・透明のシートに文字カードと同じ大きさに正解の単語を書いておき、並べた単語に重ねることで、正解を確認することができます。

題 材	促音を含む単語
ねらい	促音を含む単語の読み方と表記の仕方が分かる。
指導内容	促音を加えて単語をつかって読む。 例：「ねっこ」「ねこ」

・清音の単語に促音を加えて、促音を含む単語をつかって読む学習に取り組みます。促音が入ることで単語の意味や読み方が変わることを理解できるようにします。

(1) 絵カードの名称を確認する。

・絵カードの名称を子どもと確認する。



・提示枠の上に絵カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

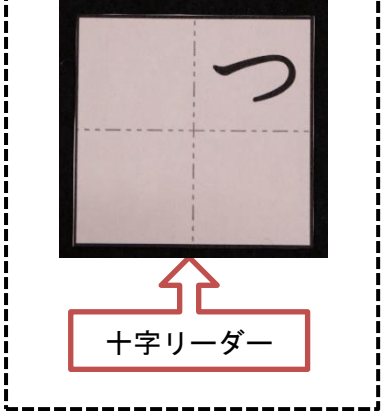
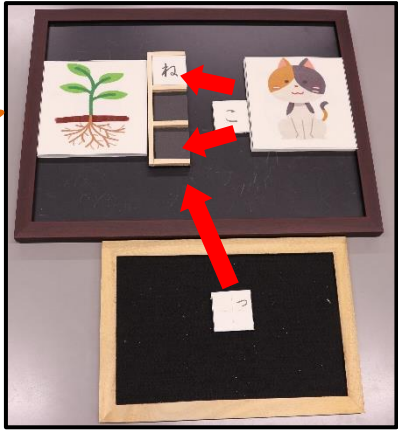
(2) 促音を加えて単語をつくる。

・「ねこ」の絵カードの隣に「ねっこ」の絵カードと文字枠を提示する。
 ・選択枠に促音の文字カードを提示する。
 ・「『ねこ』を『ねっこ』にしてみよう。」と子どもに伝える。



・文字枠を設けることで、何文字の単語をつくるのか分かりやすくする。
 ・促音の文字カードは、他の文字と同じ大きさにする。その際、文字カードに「十字リーダー」を入れると、清音の文字との大きさの違いが分かりやすい。

・子どもは、促音の文字カードを加えて単語をつくる。



(3) 絵カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。
- ・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



- ・音節枠を使って、ブロックを置きながら読み方を確認してもよい。(P24～「促音を含む単語」参照)



題 材	拗音を含む単語
ねらい	絵とその名称を表す単語とを結び付ける。
指導内容	絵カードとその名称を表す単語カードとを合わせる。 例：「おもちゃ」「おもち」

・絵カードを見て単語カードを選ぶ学習と拗音の有無で単語の意味が変わる2枚の絵カードを見てその単語カードを組み合わせる学習に取り組みます。単語を読んで絵カードを選ぶ学習にも取り組み、拗音を含むものの名称を語形として理解できるようにします。(P10～「清音のみの単語」参照)

【絵カードを見て単語カードを選ぶ】(見本なし)

(1) 絵カードの名称を確認する。

・絵カードの名称を子どもと確認する。



・提示枠の上に絵カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

(2) 単語カードを選ぶ。

・選択枠に単語カードを提示し、『おもちゃ』はどっちかな?と子どもに尋ねる。
・子どもは、単語カードを選び、回答枠に置く。



・子どもが迷っている場合は、「小さい『や』があるのが、『おもちゃ』だね。」などと言葉掛けし、拗音に注目できるようにする。

(3) 絵カードを裏返し、正解を確認する。

・子どもは絵カードを裏返し、答え合わせをする。
・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



・絵カードの裏面に正解の単語を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。

【2枚の絵カードと単語カードを組み合わせる】(見本なし)

(1) 2枚の絵カードの名称を確認する。

- ・それぞれの絵カードの名称を子どもと確認する。



- ・拗音の有無で単語の意味が変わる2枚の絵カードを用意する。

(2) 絵カードと単語カードを組み合わせる。

- ・選択枠に単語カードを提示し、「絵カードと組み合わせてみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、それぞれの回答枠に単語カードを置く。



- ・提示するカードの位置が、いつも同じ位置にならないようにする。

(3) 2枚の絵カードを裏返して正解を確認し、読む。

- ・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。
- ・子どもと一緒に、一文字ずつ指さしながら読む。



- ・絵カードの裏面に正解の単語を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。
- ・2枚の単語カードを見比べて、拗音の有無で読み方やその意味が変わることを確認する。

題 材	拗音を含む単語
ねらい	拗音とその音を結び付けて読む。
指導内容	文字カードを並べて単語をつかって読む。 例：「おもちゃ」「いしゃ」

・ 拗音を1枚の文字カードにして単語をつかって読む学習と、拗音を2枚の文字カードに分けて単語をつかって読む学習に取り組みます。拗音を1枚の文字カードにすることで、並べる文字数と音節数が同じになるため、文字と音を結び付けやすくなります。また、拗音を2枚の文字カードにすることで、拗音の特徴でもある文字数と音節数の違いを理解しやすくなります。

【拗音「ちゃ」を1枚の文字カードにして単語をつかって読む】（見本なし）

(1) 絵カードの名称を確認する。

・ 絵カードの名称を子どもと確認する。

提示枠



・ 提示枠の上に絵カードを置くことで、子どもが注目しやすくなる。

(2) 文字カードを並べて単語をつくる。

・ 選択枠に文字カードを提示し、「『おもちゃ』をつくってみよう。」と子どもに伝える。

・ 子どもは、文字カードを文字枠に並べる。

・ 子どもが一文字置くごとに、教師がその文字を読む。

文字枠



選択枠



・ 文字枠を設けることで、何文字の単語をつくるのか分かりやすくする。

・ 選択枠には、使用する文字のみを提示する。

・ 拗音は、1枚の文字カードにして提示する。



(3) 絵カードを裏返し、正解を確認する。



・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。

(4) 音節枠にブロックを置き、読む。

・音節枠を文字枠の横に置き、選択枠にブロックを並べる。
 ・「ブロックを置きながら読んでみよう。」と子どもに伝える。



・算数ブロックを使っているが、マグネットや積み木などでもよい。

・子どもは、ブロックを音節枠に置く。
 ・子どもが音節枠にブロックを置く動きに合わせて、教師が一音ずつ読む。



・子どもがブロックを置く動きに合わせて教師が音声を添えることで、拗音は2文字で一音節であることを理解できるようにする。

・子どもがブロックをすべて置いたら、一文字ずつ指さしながら一緒に読む。

【拗音「しゃ」を「し」と「や」の2枚の文字カードにして単語をつくって読む】（見本なし）

(1) 絵カードの名称を確認する。

- ・それぞれの絵カードの名称を子どもと確認する。



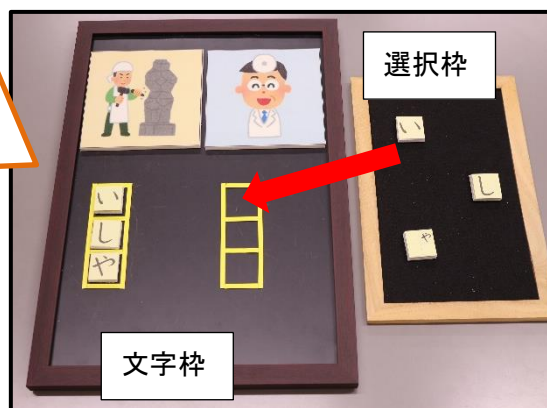
- ・拗音の有無で単語の意味が変わる2枚の絵カードを用意する。

- ・文字枠を設けることで、何文字の単語をつくるのか分かりやすくする。

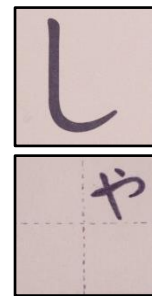
- ・同時に2つの単語をつくる指導例を示しているが、子どもの実態に応じて、1つずつ単語をつくってもよい。

(2) 文字カードを並べて単語をつくる。

- ・選択枠に文字カードを提示し、『『いしゃ』と『いしゃ』をつくってみよう。』と子どもに伝える。
- ・子どもは、文字カードを文字枠に並べる。

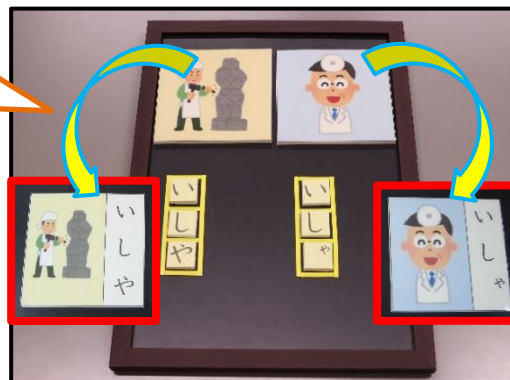


- ・選択枠には、使用する文字のみを提示する。
- ・拗音は、2枚の文字カードに分けて提示する。



(3) 絵カードを裏返し、正解を確認する。

- ・絵カードを裏返し、答え合わせをする。



- ・絵カードの裏面に正解の単語を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。

(4) 音節枠にブロックを置き、教師と一緒に読む。

- ・音節枠を文字枠の横に置き、選択枠にブロックを並べる。
- ・「ブロックを置きながら読んでみよう。」と子どもに伝える。



- ・算数ブロックを使っているが、マグネットや積み木などでもよい。

- ・子どもは、ブロックを音節枠に置く。
- ・子どもが音節枠にブロックを置く動きに合わせて、教師が一音ずつ読む。



- ・2つの単語の音節数の違いを比較できるように、2つを並べた状態でブロックを置いていく。

- ・子どもがブロックをすべて置いたら、一文字ずつ指さしながら一緒に読む。

- ・子どもがブロックを置く動きに合わせて教師が音声を添えることで、拗音は2文字で一音節であることを理解できるようにする。

② 文の学習

題 材	助詞を含まない文
ねらい	助詞を含まない文で表現された内容が分かる。
指導内容	助詞を含まない文を読んで具体物进行操作する。 例：「あかい まる」

- ・色板の色や形を表す文を読んで、その文の内容に合った色板を選ぶ学習に取り組みます。提示する文は、色の名称を変えたり、形の名称を変えたりし、いろいろな文を読んでその文の内容に合う色板を選ぶことができますようにします。

(1) 提示された文を読む。

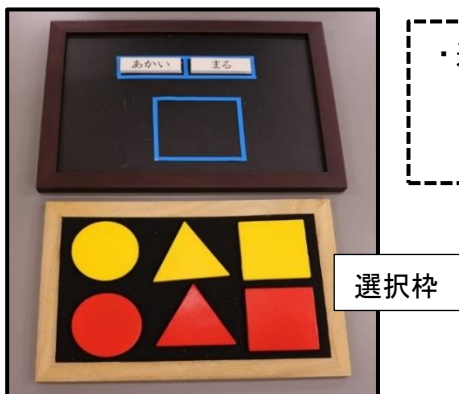
- ・提示枠に文を提示し、「何と書いてあるかな？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもは文を読む。



- ・子どもと一緒に文を指さしながら読む。読みに慣れてきたら、子どもが読むのを見守る。

(2) 文の内容に合った色板を選ぶ。

- ・選択枠に色板を提示し、「文の内容に合った色板を選んでみよう。」と子どもに伝える。



- ・選択枠の色板は、子どもの実態に応じて提示する種類や枚数を調整する。

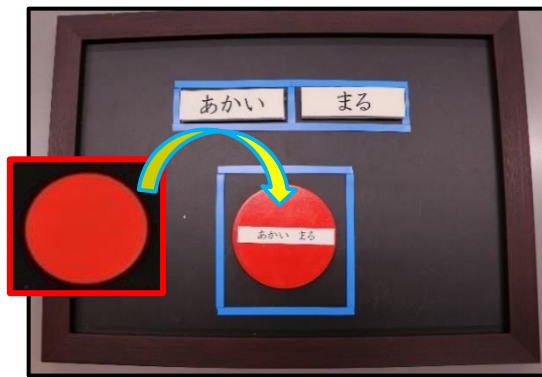
- ・子どもは色板を選び、回答枠に置く。



- ・子どもが迷っている場合は、「『あかいまる』だから、赤い色の丸い形だね。」など具体的に伝える。

(3) 色板を裏返し、正解を確認する。

・子どもは、色板を裏返し、答え合わせをする。



・色板の裏面に正解の文を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認できる。

事例の紹介②

<助詞を含まない文の学習に、より主体的に取り組むことができたBさん>

・文の内容に合った色板を選ぶことができるようになってきたBさんが、より主体的に学習に取り組めるよう、担任の先生は、選択枠の提示の仕方を工夫することにしました。

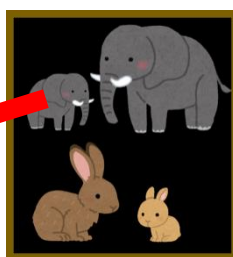
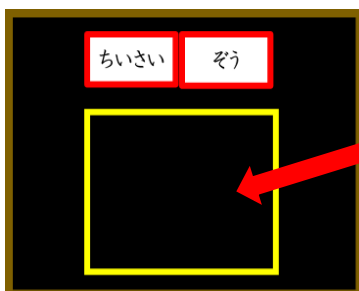
Bさんは、4色（赤、青、黄、緑）と3種類の形（丸、三角、四角）の色板を使った学習に取り組んでいました。そこで、写真のように、枠を用いて色板を提示するようにしました。



Bさんは、縦の色の名前と横の形の名前を指さしながら、文の内容に合った色板を選ぶことができました。また、答え合わせの際には、担任と一緒に、色の名前と形の名前が交差したところの色板が選んでいるか、指さしながら正解を確認するようにしました。正解すると、担任と一緒に「正解！まる！」と、言葉と身振りで喜びを共有し、より主体的に文の学習に取り組むことができました。



【いろいろな表現の助詞を含まない文を読んで具体物を操作する】



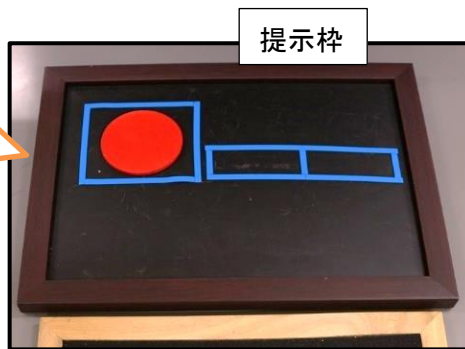
・子どもの実態に応じて、「おおきい ぞう」「ちいさい ぞう」など、いろいろな言葉を用いた助詞を含まない文を学習し、子どもの表現の幅を広げていきます。

題 材	助詞を含まない文
ねらい	身近なものを助詞を含まない文で表現する。
指導内容	助詞を含まない文をつかって読む。 例：「あかい まる」

・提示された色板について、2つの単語を並べて表現する学習に取り組みます。提示する色板を変えることで、いろいろな文をつかって読むことができるようになります。

(1) 色板を表す文を答える。

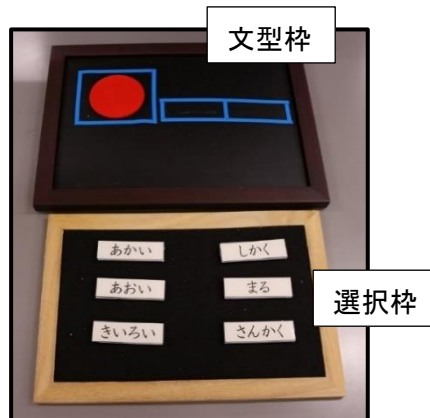
- ・提示枠に色板を提示し、「これはどんな色板かな？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもは色板を表す文を答える。



・子どもが「あか」や「まる」などの単語で表現した場合は、子どもの言葉を補い、「『あかいまる』だね。」と、文で伝えるようにする。

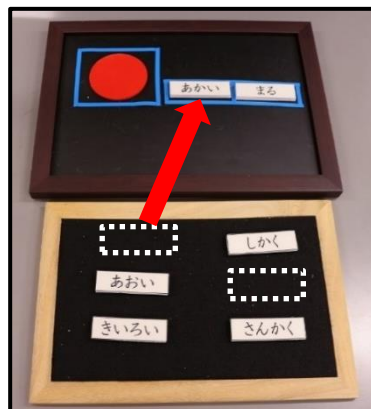
(2) 単語カードを並べて文をつくる。

- ・選択枠に単語カードを提示し、「『あかい まる』の文をつくってみよう。」と子どもに伝える。



・文型枠を設けることで、何語文をつくるのか、分かりやすくなる。

- ・子どもは、単語カードを選び、文型枠に並べる。

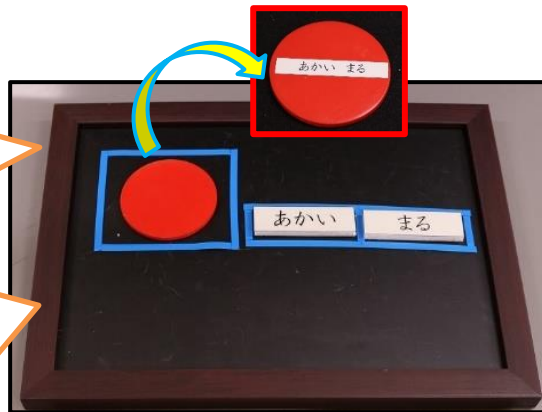


・子どもが単語カードを並べたら、その都度、教師がその単語を読む。
・慣れてきたら、子どもが単語カードを並べる様子を見守る。

(3) 色板を裏返して正解を確認し、読む。

・子どもは、色板を裏返して、答え合わせをする。

・「つくった文を読
んでみよう。」と
子どもに伝える。
・子どもは、つくっ
た文を読む。



・色板の裏面に正解の文を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認することができる。



<単語カードの提示の仕方の工夫>

・言葉には、いろいろな仲間があることを理解できるよう、「色を表す言葉の仲間」や「形を表す言葉の仲間」など、分類して提示します。

題 材	2 語文
ねらい	2 語文で表現された内容が分かる。
指導内容	2 語文を読んで動作で表現する。 例：「りんごを たべる」

・ 2 語文を読んで、その内容に合うものを選んだり、動作で表現したりする学習に取り組みます。動作で表現することで、文の内容の理解を深めることができます。

(1) 提示された文を読む。

・ 提示枠に文を提示し、「何と書いてあるかな？」と子どもに尋ねる。
 ・ 子どもは文を読む。



・ 子どもと一緒に文を指さしながら読む。読みに慣れてきたら、子どもが読むのを見守る。

(2) 文の内容に合うものを選ぶ。

・ 選択枠に食べ物と道具の模型を提示し、「文の内容に合うものを選んでみよう。」と子どもに伝える。



・ 道具の模型を提示する際は、「フォークは食べるときに使うね。」など、その用途について言葉と動作で確認する。

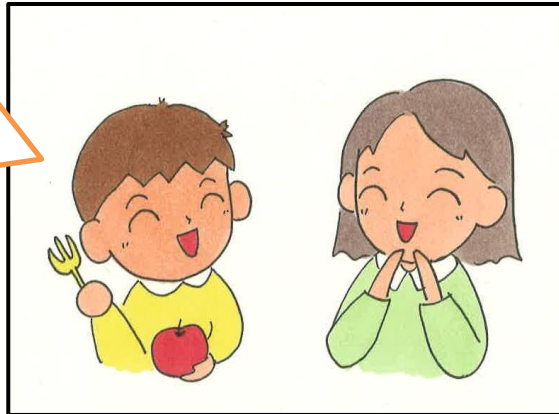
・ 子どもは、文の内容に合った食べ物や道具を選び、提示枠に置く。



・ 子どもが迷っている場合は、文を指さしながら、「『りんごを たべる』だね。『りんご』はどれかな？」などと具体的に伝える。

(3) 教師と一緒に、動作で表現する。

- ・「文の内容に合うように動作で表現してみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、動作で表現する。



- ・「おいしいね。」など食べることに関連する言葉も添え、いろいろな言葉での表現に触れることができるようにする。

< 2 語文の表現の例 >

- ・ 2 語文には、助詞の違いによってこのような表現があります。子どもの実態に応じて、指導内容を設定する際の参考としてください。

文 型	例 文
〇〇 が △△	わたし が はしる
〇〇 を △△	おかし を たべる
〇〇 に △△	ばす に のる
〇〇 と △△	ぼく と おかあさん
〇〇 へ △△	うみ へ いく
〇〇 で △△	えんぴつ で かく
〇〇 の △△	うさぎ の みみ
〇〇 は △△	わたし は はしる
〇〇 も △△	かれーrais も たべる
など	など

題 材	2 語文
ねらい	絵カードが表す内容を 2 語文で表現する。
指導内容	2 語文をつかって読む。 例：「りんごを たべる」

・子どもにとって身近なものの名称と動作を表す言葉をつなげ、2 語文で表現する学習に取り組みます。2 語文をつかって読むことと合わせて、動作で表現することで、文の内容の理解を深めることができます。

(1) 絵カードが表す内容を言葉で表現する。

- ・ 提示枠に絵カードを提示し、「何をしているところかな？」と子どもに尋ねる。
- ・ 子どもは絵カードが表す内容を言葉で表現する。



- ・ 子どもが、絵カードの内容を文の形で表現することが難しい場合は、教師が必要な言葉を補って文の形で伝えるようにする。

(2) 単語カードを並べて文をつくる。

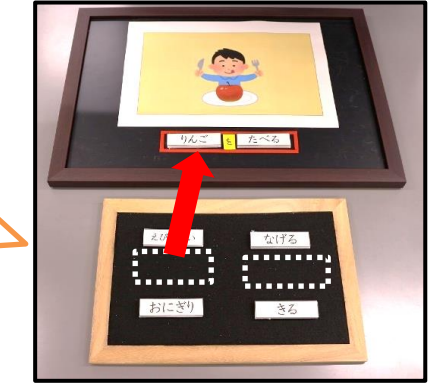
- ・ 選択枠に単語カードを提示し、「『りんごをたべる』の文をつくってみよう。」と子どもに伝える。



- ・ 文型枠を設けることで、何語文の文をつくるのか、分かりやすくなる。
- ・ ここでは、正しい助詞の使い方までねらいとしていないため、助詞は単語カードの色と変えて枠内に並べておく。



- ・ 子どもは、単語カードを選び、文型枠に並べる。



- ・ 子どもが単語カードを並べたら、その都度、教師がその単語を読む。
- ・ 慣れてきたら、子どもが単語カードを並べる様子を見守る。

(3) 絵カードを裏返し、正解を確認する。

- ・子どもは、絵カードを裏返し、答え合わせをする。



- ・絵カードの裏面に正解の文を付けておくことで、子どもが自分で正解を確認することができる。

(4) つくった文を読み、教師と一緒に動作で表現する。

- ・「つくった文を読んでもみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、つくった文を読む。

- ・「動作で表現してみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、動作で表現する。



- ・文の内容を動作で表現することで、文の内容の理解を深めることができる。

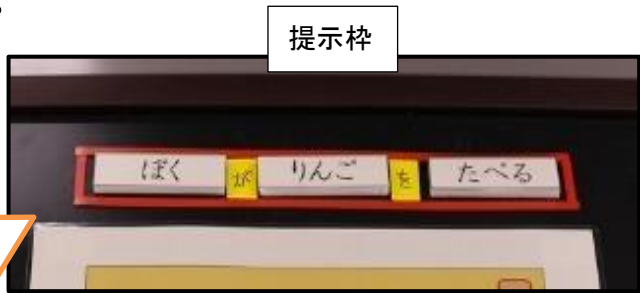
- ・「おいしいね。」など食べることに関連する言葉も添え、いろいろな言葉での表現に触れることができるようにする。

題 材	3 語文
ねらい	3 語文で表現された内容が分かる。
指導内容	3 語文を読んでカードを操作する。 例：「ぼくが りんごを たべる」

・主語を変えた文や食べ物の種類を変えた文など、いろいろな3語文を読んで動作で表現する学習に取り組みます。その中で、主語などが変わると文が表す意味が変わることを理解できるようにします。題材には、子どもの興味・関心のあることや日常生活で経験のあることなどよく知っている事柄を取り上げるようにします。

(1) 提示された文を読む。

- ・提示枠に文を提示し、「何と書いてあるかな？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもは文を読む。



- ・助詞の部分は、色を変えて提示しておく。

(2) 文の内容に合うように食べ物カードを操作する。

- ・選択枠に食べ物カードを提示し、「文の内容に合うように食べ物カードを動かして、絵カードに置いてみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは食べ物カードを操作する。



- ・子どもが迷っている場合は、「だれが、食べるのかな？」など、文を指さしながら具体的に伝える。

(3) 正解を確認し、読む。

- ・子どもは、教師と一緒に文や絵カードを指さしながら読む。



- ・3語文を構成している単語と対応する絵を交互に指さしながら、絵カードと文が表す内容が同じか確認する。

- ・食べる真似をするなど、動作でも表現することで、文の内容の理解を深めることができる。
- ・「おいしいね。」など食べることに関連する言葉も添え、いろいろな言葉での表現に触れることができるようにする。

題 材	3 語文
-----	------

ねらい	絵カードが表す内容を3語文で表現する。
-----	---------------------

指導内容	3語文をつかって読む。 例：「ぼくが りんごを たべる」
------	------------------------------

・絵カードが表す内容を、単語カードを並べ、つって読む学習に取り組みます。主語や食べ物の種類を変えることで、いろいろな文をつくることができますようにします。

(1) 絵カードが表す内容を言葉で表現する。

- ・提示枠に絵カードを提示し、「誰が何をしているところかな？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもは、絵カードの内容を言葉で表現する。



- ・子どもが、絵カードの内容を文の形で表現することが難しい場合は、教師が必要な言葉を補って文の形で伝えるようにする。

(2) 単語カードを並べて文をつくる。

- ・選択枠に単語カードを提示し、『ぼくがりんごをたべる』の文をつくってみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは単語カードを選び、文型枠に並べる。



- ・文型枠を設けることで、何語文の文をつくるのか、分かりやすくなる。
- ・ここでは、正しい助詞の使い方までねらいとしていないため、助詞は、単語カードの色と変えて枠内に並べておく。

- ・子どもが単語カードを並べたら、その都度、教師がその単語を読む。

- ・選択枠の単語カードを、「人」「物」「動作」など単語の仲間ごとに分類して提示することで、3語文の構成の理解につながる。

(3) 正解を確認し、読む。

- ・子どもは、教師と一緒に文や絵カードを指さしながら読む。



- ・3語文を構成している単語と対応する絵を交互に指さしながら、文と絵カードが表す内容が同じか確認する。

題 材	3 語文
-----	------

ねらい	自分が考えた内容を 3 語文で表現する。
-----	----------------------

指導内容	「だれが」「なにを」を考えて 3 語文をつかって読む。 例：「せんせいが はんぱーぐを たべる」
------	---

・子ども自身が、「だれが」「なにを」を考えて 3 語文をつくる学習に取り組みます。つくった文を読んで、教師と一緒に動作で表現することで、楽しみながら文の内容の理解を深めることができます。

(1) 「だれが」「なにを」の部分を自分で考え、言葉で表現する。

- ・教材を提示し、「誰が、何を食べますか？」と子どもに尋ねる。
- ・子どもは、自分で考えた内容を言葉で表現する。



- ・子どもが好きな食べ物のカードを用意する。
- ・「だれが」「なにを」を考える際は、「誰が食べることにしようか？」など、子どもとやり取りしながら内容を考えていけるようにする。

(2) 自分が考えた内容の通りに食べ物カードを操作する。

- ・「今、話した通りに食べ物カードを動かしてみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、食べ物カードを操作する。



(3) 単語カードを並べて文をつくる。

- ・ 選択枠に単語カードを提示し、「単語カードを並べて、文をつくってみよう。」と子どもに伝える。
- ・ 子どもは、単語カードを選び、文型枠に並べる。



- ・ 文型枠を設けることで、何語文の文をつくるのか、分かりやすくなる。
- ・ ここでは、正しい助詞の使い方までねらいとしていないため、助詞は、単語カードの色と変えて枠内に並べておく。

- ・ 選択枠の単語カードを、「人」「物」「動作」など単語の仲間ごとに分類して提示することで、3語文の構成の理解につながる。

(4) つくった文を読み、教師と一緒に動作で表現する。

- ・ 「つくった文を読んでみよう。」と子どもに伝える。
- ・ 子どもは、つくった文を読む。



- ・ 子どもは、ハンバーグの食べ物カードを教師に手渡す。
- ・ 教師は食べる真似をする。



- ・ 食べる真似をするなど、動作でも表現することで、文の内容の理解を深めることができる。
- ・ 「おいしいね。」など食べることに関連する言葉も添え、子どもが楽しみながら、いろいろな言葉に触れることができるようにする。



【友達と一緒に3語文をつくって読む】

- ・ 友達と一緒に学習することで、「だれが」「なにを」食べるか、内容を考える役割を交替しながら、楽しく学習することができます。

題 材	3 語文
-----	------

ねらい	自分が経験したことを3語文で表現する。
-----	---------------------

指導内容	自分が経験したことの3語文をつかって読んだり書いたりする。 例：「ぼくが おちやを かう」
------	--

・ 日記や作文、手紙などを書くことにつながるよう、自分が経験したことを3語文で表現する学習に取り組みます。学校生活で経験したことの写真カードを手掛かりに、子どもが表現した言葉を生かして文をつくるようにします。

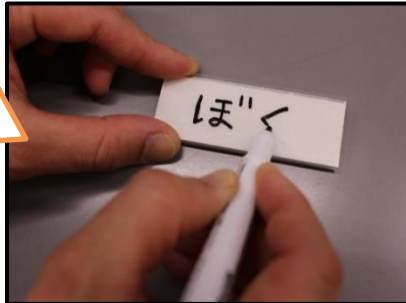
(1) 写真を見て、経験したことを言葉で表現する。

- ・ 写真カードを提示し、「何をしているところかな？」と子どもに尋ねる。
- ・ 子どもは、自分の経験したことを言葉で表現する。

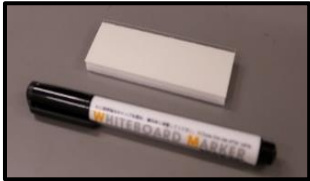


- ・ 子どもが経験したことを思い出すことができるよう、経験した内容を具体的に伝えるようにする。
- ・ 子どもが3語文の形で表現することが難しい場合は、教師が必要な言葉を補って3語文の形で伝えるようにする。

- ・ 子どもが表現した文に含まれる単語（ぼく、おちや、かう等）の単語カードをつくる。

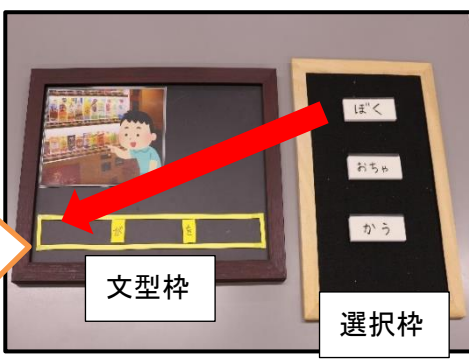


- ・ 単語カードはその場で書いて用意するようにし、子どもが表現した言葉を生かす。
- ・ 単語カードにラミネートシートを貼り付けると、何度も書いたり消したりすることができる。



(2) 単語カードを並べて文をつくる。

- ・ 選択枠に単語カードを提示し、「文をつくってみよう。」と子どもに伝える。
- ・ 子どもは、単語カードを文字枠に並べる。

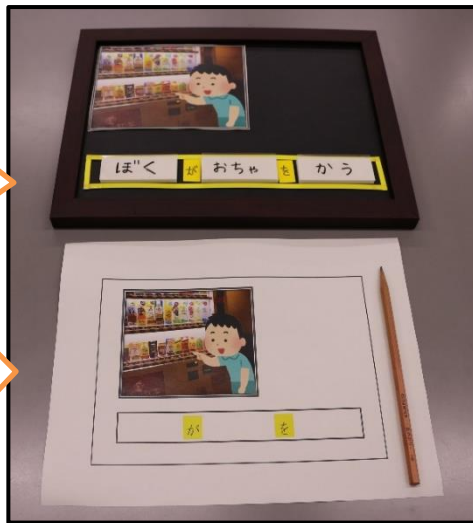


- ・ 文型枠を設けることで、何語文の文をつくるのか、分かりやすくなる。
- ・ ここでは、正しい助詞の使い方の理解までねらっていないため、助詞は、単語カードの色と変えて枠内に並べておく。

(3) つくった文を読んだり書いたりする。

- ・「つくった文を読んでもみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、つくった文を読む。

- ・プリントを提示し、「つくった文を書いてみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、つくった文を見ながら、プリントに書く。



- ・つくった文以外にも、「買い物に行ったね。」「お茶を飲んだね。」など経験したことに関する言葉を添え、いろいろな文での表現に触れることができるようにする。

- ・バランスよく書くために、文を書く枠は文字数に応じた適切な幅にする。

- ・単語カードで文をつくってから書くことができるようになったら、子どもが言葉で表現した文を、そのままプリントに書くようにする。

事例の紹介③

<自分で考えた文を書くことができるようになったBさん>

- ・Bさんは、単語カードを並べて3語文をつくる学習を通して、自分の経験したことも、3語文の形で表現することができるようになってきました。Bさんの様子から、単語カードを並べる過程を省略しても、3語文で表現し書くことができるのではないかと考えた担任の先生は、Bさんに単語カードを並べずに文を書いてみることを提案しました。

Bさんは、自分が給食を食べている写真を手掛かりに、「ぼくが きゅうしょくを たべる」と3語文で表現し、それを丁寧にプリントに書くことができました。文を書く枠は、文の文字数とBさんの書きやすさを考慮した幅のものを用意しました。

さらに、友達が掃除の時間に雑巾を絞っている写真を手掛かりに、「Cさんが タオルをしぼる」と3語文で表現し、友達が主語の文も書くことができました。



ぼくが 給食を たべる

題 材	質問文に答える
ねらい	3 語文で表現された内容が分かり、質問に答える。
指導内容	3 語文を読んで質問に答える。 例：「ぼくが ボールを なげる」

・これまでに学習した3語文を読んで、その内容についての質問に答える学習に取り組みます。「だれが?」「なにを?」「どうした?」などの質問に答えることは、文の構成の理解につながります。

(1) 提示された文を読む。

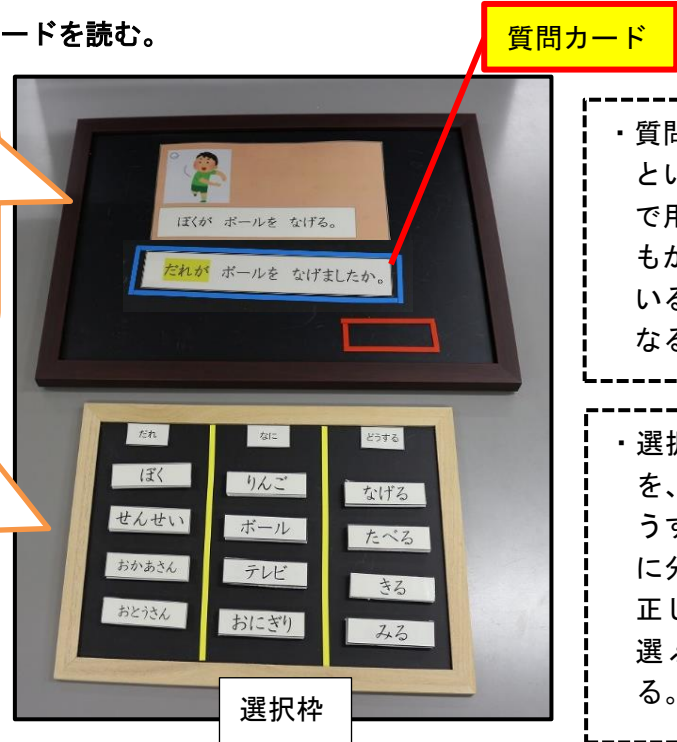
・提示枠に文カードを提示し、「何と書いてあるかな?」と子どもに尋ねる。
・子どもは文を読む。



・提示する3語文は、これまでに子どもが学習してきた文を用いるとよい。

(2) 提示された質問カードを読む。

・「質問するよ。」と言って、質問カードを読みながら提示する。



・質問文の「だれが」という箇所を色付きで用意すると、子どもが何を質問されているか分かりやすくなる。

・選択枠に単語カードを提示し、「この中から、答えを選んでみよう。」と子どもに伝える。

・選択肢の単語カードを、「だれ」「なに」「どうする」の仲間ごとに分類することで、正しい単語カードを選ぶ手掛かりとなる。

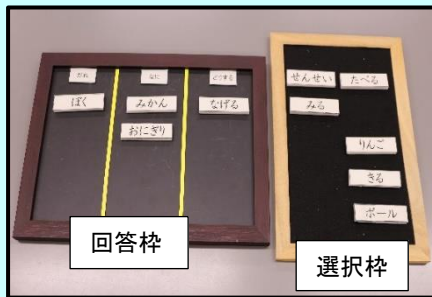
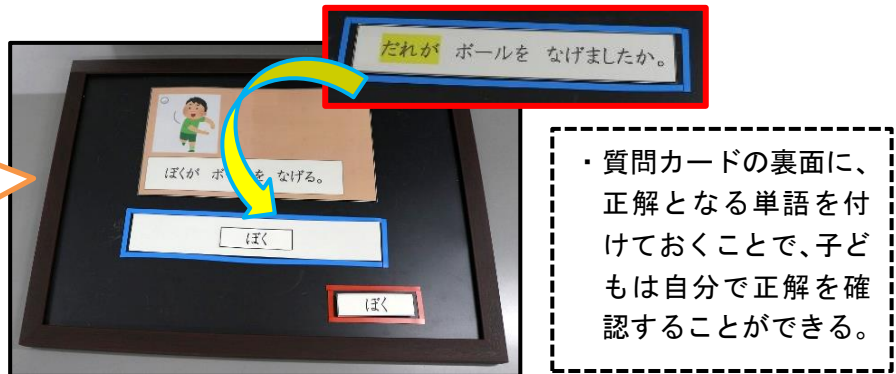
(3) 単語カードを選び、回答枠に置く。

・子どもは単語カードを選び、回答枠に置く。



(4) 質問カードを裏返し、正解を確認する。

・子どもは質問カードを裏返し、答え合わせをする。



<単語カードの分類の学習>

・質問文に答える学習の前に、単語のカードを「だれ(人)」「なに(物)」「どうする(動作)」など単語の仲間ごとに分類する学習に取り組むことで、3語文の構成の理解につながり、質問されていることの意味が分かりやすくなります。

<質問文の示し方の工夫>

- ① **だれが** ボールを なげましたか。
- ② ボールは **だれが** なげましたか。
- ③ ボールを なげたのは **だれ**ですか。

・質問文の文型は、左の図のように複数考えられます。始めは、①のように、提示枠の3語文と同じ文型にすると、何を質問されているか分かりやすくなります。
 ・徐々に、②や③のように、いろいろな表現の質問に答える学習を行います。

事例の紹介④

＜日記を書く活動の中で身近な人との言葉でのやり取りに広がりが見られたBさん＞

- ・ 3 語文の学習の中で、経験したことを文で表現したり、書いたり、質問に答えたりすることができるようになったBさんは、生活の中で、その力を生かすことができるよう、担任の先生と一緒に一日を振り返り、日記を書く活動に取り組み始めました。

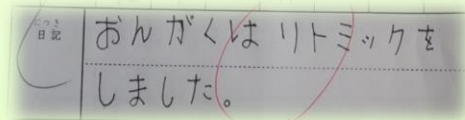
担任の先生が「何の授業について書きますか？」とBさんに質問し、Bさんはその日の日課の中からどの授業について書くか選びました。例えば、Bさんが「音楽」と答えたら、さらに「音楽では、何をしましたか？」と質問し、やり取りをしながら書くようにしました。

担任の先生は、日記を保護者にも読んでもらうようにしました。

ある日、「体育はなわとびをしました。」という日記を読んだ保護者が、Bさんに「体育は何をしたの？」と尋ねたところ、Bさんは「なわとび！」と答えたとす。

これまで、相手の言った言葉を繰り返すことが多かったBさんが、保護者の問い掛けにこのように答えたのは初めてだったため、保護者はとても喜んでいました。

文の学習を通して、日常生活においても、言葉でのやり取りに広がりが見られるようになりました。





(2) 書く学習

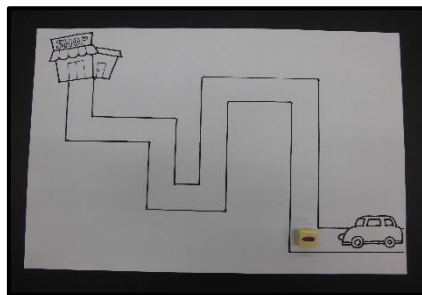
題 材	めいろ
ねらい	手元を見てゆっくりものを動かす。
指導内容	線に沿って具体物を動かす。

- ・筆記具で書く前に、手元を見て、手首や肘、腕の運動を調整しながら線に沿って具体物を操作する学習に取り組みます。地図に見立てるなど教材を工夫し、楽しみながら具体物を操作することができるようにします。



【壁ありのめいろ】

- ・スチレンボードなどをくり抜いて、壁ありのめいろをつくり、その線に沿って具体物を動かします。具体物が線からそれると「壁」に当たるため、子どもは、手元をよく見ながら動きを調整することができます。
- ・線の幅は、動かすものより少しだけ広い幅にします。



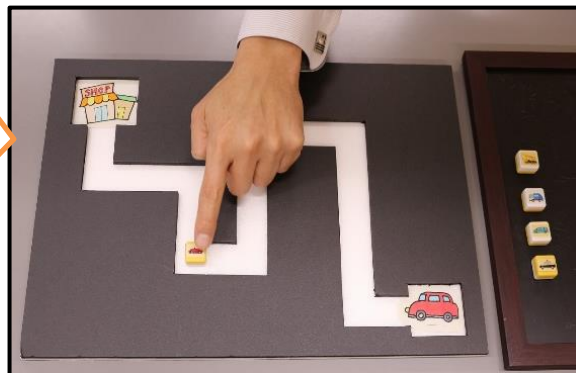
【壁なしのめいろ】

- ・壁ありのめいろでゆっくり動かせるようになったら、壁なしのめいろでも同様に学習します。子どもが具体物を動かす際に、「道路から出ないようにね。」などと言葉掛けしながら、線に沿って具体物を動かすことができるようにします。

【壁ありのめいろ】

(1) 教師が線に沿ってブロックを動かすのを見る。

- ・教材を提示し、「車が走るよ、見ててね。」などと子どもに伝え、ブロックをゆっくり動かす。

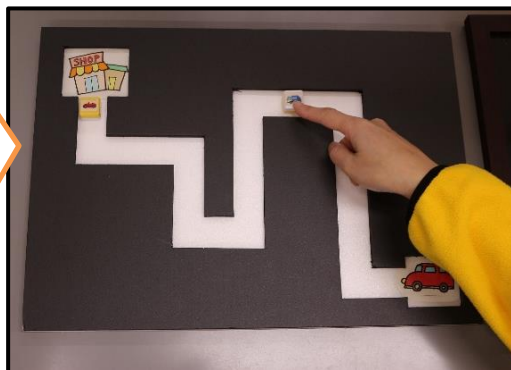


- ・ブロックには、子どもの好きな車の絵などを貼っておき、選べるようにする。

- ・子どもが教師の手元を見ていることを確認しながら動かす。
- ・子どもが興味・関心をもてるよう、「ゆっくり走るよ。」「ぶつからないように走るよ。」などと言葉掛けしながら動かす。

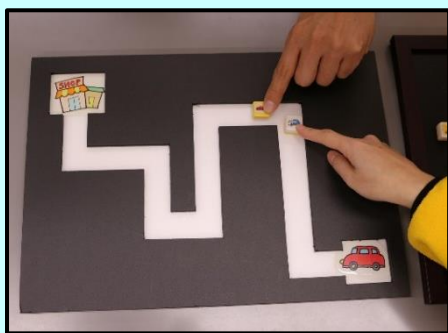
(2) 線に沿ってブロックを動かす。

- ・「ゆっくり車を走らせてみよう。」などと言って子どもにブロックを渡す。
- ・子どもは、ブロックを線に沿ってゆっくり動かす。



- ・子どもが終点までブロックを動かしたら、「お店に、到着！」など言葉掛けし、楽しみながら取り組むことができるようにする。

- ・滑らせる動きを目で追いながらゆっくり動かすことができるようにする。
- ・子どもがブロックを動かすのに合わせて「スタート」「ストップ(ぴたっ)」「ゆっくり」などの言葉を添え、教師の言葉に応じて動きを調整できるようにする。
- ・線の途中に、「止まれ」の標識などを置いて、速度を調整するようにしてもよい。



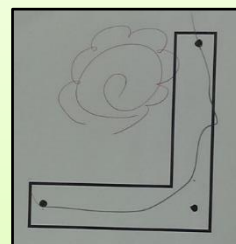
<教師と一緒にブロックを動かす例>

- ・教師が動かすブロックに続いて子どもがブロックを動かすことで、教師の動きに合わせて、子どもはブロックを動かす速度を調整することができます。このことは、自分で手の動きを調整して書くことにつながります。

事例の紹介⑤

<手元を見てゆっくり具体物を操作することができたAさん>

- ・Aさんはいろいろな線を書く学習に取り組んでいました。Aさんは始点と終点を結ぶことを理解していましたが、2点結びの終点を突き抜けたリ、L字の線では、枠からはみ出したりする様子が見られました。担任の先生は、始点から終点までゆっくり筆記具を動かして書くことができると、書く力がさらに高まるのではないかと考えました。そこで、筆記具で書くことにこだわらず、手元を見ながらゆっくり具体物を操作する学習に取り組むことにしました。



地図に見立てためいろう上でミニカーを走らせる学習に取り組みました。Aさんは、めいろう上の「止まれ」の標識の前でミニカーを止めたり、めいろうからはみ出さないように、手元を見ながらゆっくりミニカーを動かしたりすることができました。



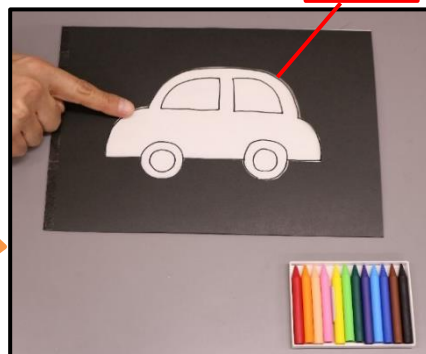
題 材	ぬりえ
ねらい	絵柄の輪郭を意識してぬる。
指導内容	枠を付けて輪郭を意識してぬる。 例：くるまのぬりえ

・興味・関心のある絵柄のぬりえに取り組みます。ぬることを楽しみながら、その中で、外枠や中枠を用いることで、より絵柄の輪郭を意識してぬることができます。子どもの実態に応じ、外枠や中枠を付けたり外したりして行います。

【外枠あり】

(1) ぬる絵柄を確認する。

- ・外枠を付けたぬりえを提示する。
- ・輪郭を指でなぞりながら、「この中をぬるよ。」と子どもに伝える。



- ・絵柄は、できる限り情報量が少なく、単純なものにすることで、輪郭を意識しやすくなる。
- ・子どもが教師の手元を見ていることを確認しながら、指で輪郭をなぞるようにする。

(2) 好きな色でぬりえをする。

- ・子どもは、好きな色でぬりえをする。

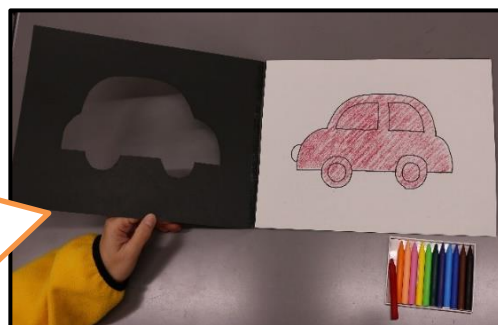
- ・「ガタンとしないようにぬろうね。」などと言葉掛けする。



- ・輪郭からはみ出すと、筆記具が外枠に当たるため、子どもは輪郭を意識してぬろうとすることができる。
- ・子どもがぬる様子を見ながら、輪郭を意識できるような言葉掛けをする。

(3) 外枠を外し、完成したぬりえを見る。

- ・「枠を外してみよう。何がでてくるかな？」と子どもに伝える。
- ・子どもは外枠を外し、教師と一緒にぬりえを見る。

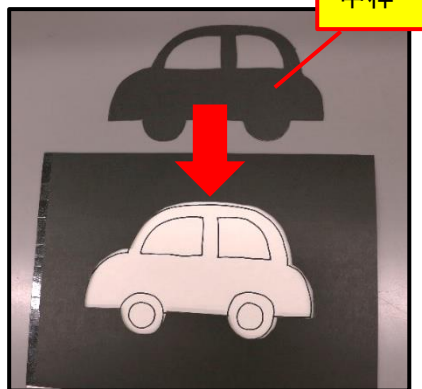


- ・子どもが教師の手元を見ていることを確認し、絵柄の輪郭をなぞりながらぬりえを見るようにする。

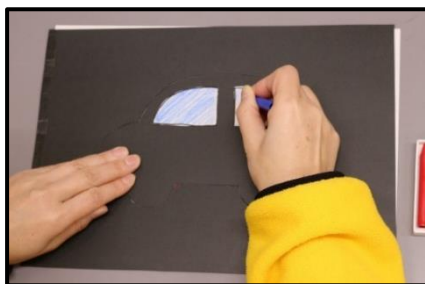
【中枠、外枠あり】

(1) 窓をぬる。

・中枠を付けて窓の部分指了指、「窓をぬってみよう。」と子どもに伝える。



・子どもは、好きな色で窓をぬる。



・細かい部分のぬり分けが難しい子どもも、枠があることで細かい部分の輪郭を意識してぬることができる。
・中枠のタイヤの部分を取り抜くことで、さらに細かいぬり分けをすることができる。

(2) 中枠を外し、車体をぬる。

・中枠を外し、「車体をぬってみよう。」と子どもに伝える。



・子どもは、好きな色で車体をぬる。



・車体の輪郭を意識できるようにするため、窓に使った色と異なる色でぬるよう言葉掛けする。

(3) 外枠を外し、完成したぬりえを見る。

・子どもは外枠を外し、教師と一緒にぬりえを見る。



・子どもが教師の手元を見ていることを確認し、窓や車体など、絵柄の輪郭をなぞりながらぬりえを見るようにする。

題 材	いろいろな線や形
-----	----------

ねらい	始点から終点までゆっくり書く。
-----	-----------------

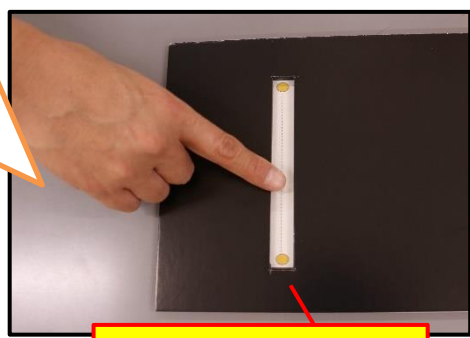
指導内容	いろいろな線を書く。
------	------------

- ・線の形にくり抜いた枠を使って、いろいろな線や形を書く学習に取り組みます。枠を使うことで、運筆がそれたり速度が速かったりすると「壁」に当たるため、子どもは手元を見ながら筆記具の動きを調整して書こうとすることができます。子どもの学習の様子に反応し、枠を外していろいろな線や形を書くようにします。
- ・筆記具で書く前に、指やブロックで線をなぞることで、始点から終点までゆっくり書くことができるようにします。

【枠ありの2点結び】

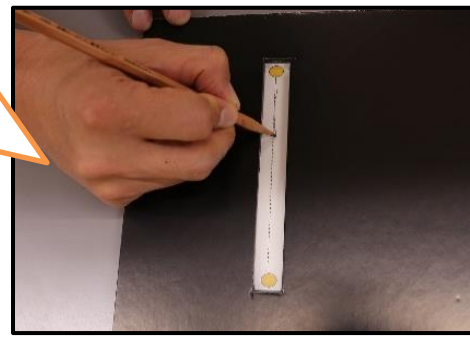
(1) 教師が線を指でなぞったり、書いたりするのを見る。

- ・教材を提示し、「ここから、ここまで線を書くよ。」と子どもに伝え、始点から終点までゆっくりと指でなぞる。



線の形にくり抜いた枠

- ・「先生が書くよ。よく見てね。」と伝え、始点から終点までゆっくり書く。



- ・枠の幅は1.5 cm程度が書きやすい。
- ・線の長さは子どもが書きやすい長さにする。

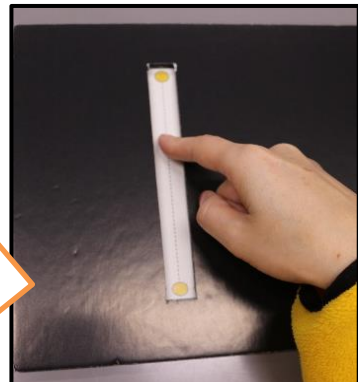


- ・子どもが始点と終点に注目できるように、子どもの好きな絵柄などの大きめの印を付ける。

- ・子どもが教師の手の動きを目で追っていることを確認しながら、ゆっくり線を書く。

(2) 線を指やブロックでなぞる。

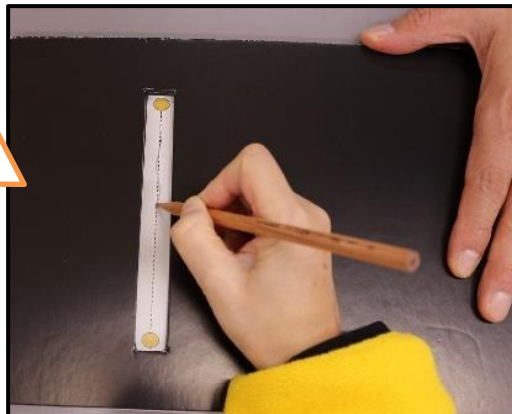
- ・始点と終点を指さし、「ここからここまでなぞってみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、指やブロックで線をなぞる。



- ・子どもの動きに合わせて、「スタート」「すー」「ストップ(ぴたっ)」「ゆっくり」などの言葉を添え、子どもが教師の言葉に応じて動きを調整できるようにする。
- ・指やブロックを動かす速度が速い場合は、子どもの手に教師の手を添え、動きをガイドすることで、ゆっくり動かす感覚をつかめるようにする。

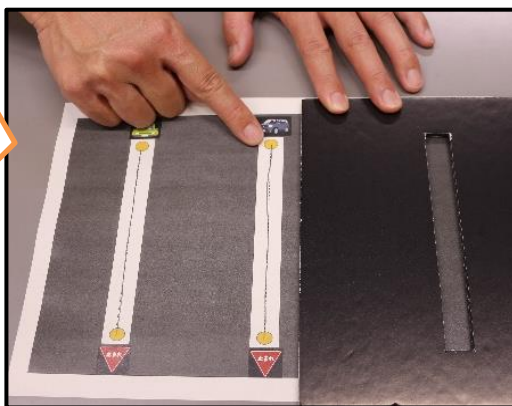
(3) 筆記具で書く。

- ・始点と終点を指さし、「ここからここまで書いてみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、筆記具で書く。

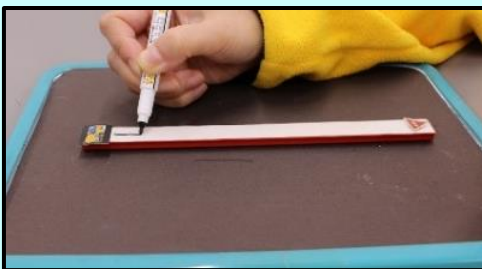


- ・筆記具は、子どもの持ちやすい太さのものを用意する。
- ・指でなぞった時と同様に、子どもが書く動きに合わせて言葉を添える。
- ・書く動きによって、紙や枠が動いてしまう場合は、教師が手で押さえるようにする。

- ・「書いた線を見よう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは枠を外し、書いた線を見る。
- ・子どもが書いた線をゆっくり指でなぞる。

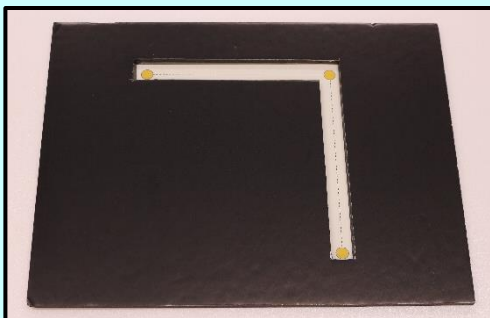


- ・子どもが教師の手の動きを目で追っていることを確認しながら、ゆっくりなぞる。



<凸面上の2点結びの教材例>

- ・棒マグネットの平面にラミネート加工した紙を貼り付け、ホワイトボードマーカーを使って書く教材です。凸面上からペン先が落ちないように、筆記具を調整して書くことができます。



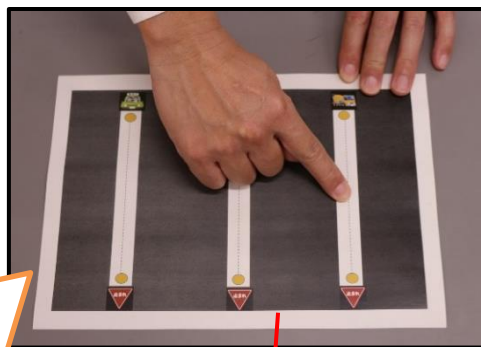
<直線を組み合わせて直角線を書く教材例>

- ・書けるようになった直線を組み合わせて続けて書く学習にも取り組みます。始点から終点までの間に、止まることが必要になるため、中間点も分かりやすく示すようにします。
- ・三角や四角など、形を書く学習にもつなげていきます。

【枠なしの2点結び】

(1) 教師が線を指やブロックでなぞるのを見る。

- ・プリントを提示し、「ここからここまで線を書くよ。」と子どもに伝え、始点から終点までゆっくり指やブロックでなぞる。



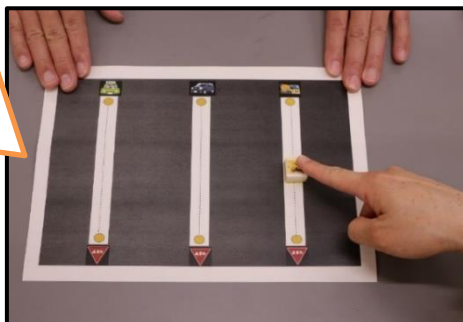
白抜きの線のプリント

- ・子どもの実態に応じ、白抜きの線や枠取りした線、始点と終点のみを示した線など、子どもが取り組みやすいプリントを用意する。
- ・白抜きの枠の幅は1.5 cm程度が書きやすい。
- ・線の長さは子どもが書きやすい長さにする。
- ・子どもが始点と終点に注目できるように、子どもの好きな絵柄などの大きめの印を付ける。

- ・子どもが教師の手の動きを目で追っていることを確認しながら、ゆっくりなぞる。

(2) 線を指やブロックでなぞる。

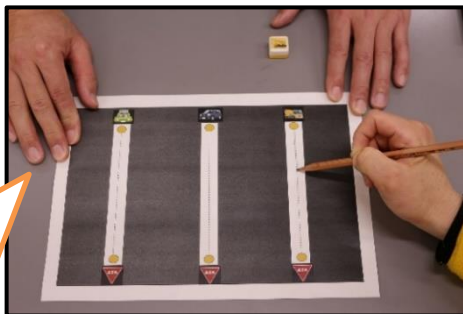
- ・始点と終点を指さし、「ここからここまでなぞってみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、指やブロックで、線をゆっくりなぞる。



- ・子どもの動きに合わせて、「スタート」「すー」「ストップ(ぴたっ)」「ゆっくり」などの言葉を添え、子どもが教師の言葉に応じて動きを調整できるようにする。
- ・指やブロックを動かす速度が速い場合は、子どもの手に教師の手を添え、動きをガイドすることで、ゆっくり動かす感覚をつかめるようにする。

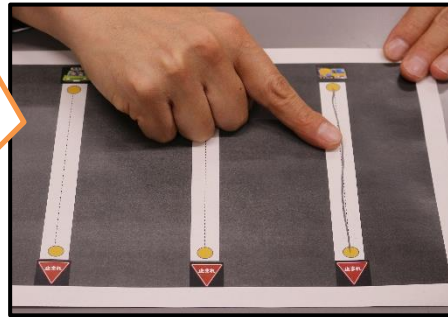
(3) 筆記具で書く。

- ・始点と終点までを指さし、「ここからここまで書いてみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもは、筆記具で書く。



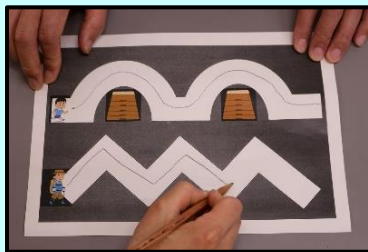
- ・筆記具は、子どもの持ちやすい太さのものを用意する。
- ・指でなぞった時と同様に、子どもが書く動きに合わせて言葉を添える。
- ・書く動きによって、紙や枠が動いてしまう場合は、教師が手で押さえるようにする。

- ・「書いた線を見
てみよう。」と子
どもに伝える。
- ・子どもは枠を外
し、書いた線を見
る。
- ・子どもが書いた
線をゆっくり指
でなぞる。

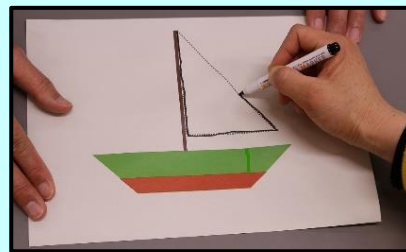


- ・子どもが教師の手の動き
を目で追っていることを
確認しながら、ゆっくりな
ぞる。

<いろいろな線や形を書く教材の工夫>



〔跳び箱や山登りに見立てた教材〕



〔三角を書いてヨットが完成する教材〕

- ・上の写真のように、子どもが楽しみながら書くことができるような教材を用意します。

事例の紹介⑥

<筆記具の動きを調整して線を書くことができたAさん>

- ・手元を見ながら線に沿ってゆっくり具体物を操作することができるようになったAさんの様子（P53 参照）を見て、担任の先生は、筆記具でも線に沿ってゆっくり書くことができるのではないかと考えました。そこで、始めに線に沿って具体物を操作し、その後、筆記具で同じところを書く学習に取り組みました。

Aさんは、ミニカーを操作するのと同じように筆記具を動かし、ゆっくり書くことができるようになりました。また、道からはみ出さないように、自ら筆記具の動きを調整する様子も見られました。

ブラックボードに描いた地図は、自由に形を変えることができるため、めいろの形を変えて、いろいろな種類の線を書く学習に取り組むことができました。



題 材	平仮名をつくる
ねらい	平仮名のつくりが分かる。
指導内容	文字片を重ねて平仮名の形をつくる。

・粘土や文字片カードを用いて、平仮名の形をつくる学習に取り組みます。子どもが正しく読むことができる平仮名や興味・関心がある単語に使われている平仮名を題材とします。

【粘土で平仮名をつくる】

(1) 粘土を細く伸ばす。

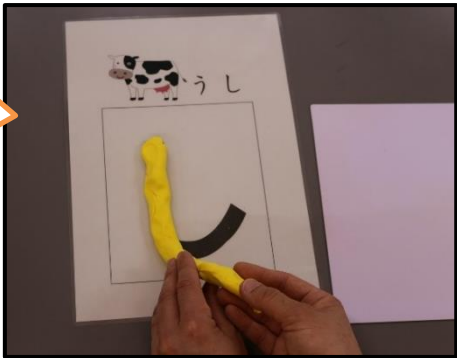
・教材を提示し、「粘土を細く伸ばして、うしの『し』をつくってみよう。」と子どもに伝える。
 ・子どもは、粘土を細長く伸ばす。



・子どもが粘土を伸ばすのが難しい場合は、教師が細長く整える。

(2) 見本の平仮名の上に粘土をのせる。

・『し』に沿って、粘土をのせてみよう。」と子どもに伝える。
 ・子どもは、台紙の平仮名に沿って、粘土をのせる。

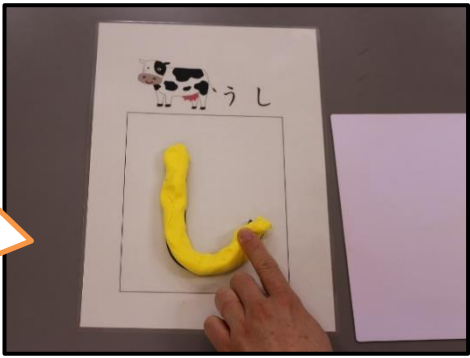


・台紙はラミネート加工したものを用意する。

・子どもが粘土をのせる際、平仮名の書き出しの位置を指さし、「ここからゆっくりのせてみよう。」などと言葉掛けする。

(3) つくった平仮名を読む。

・子どもは、教師と一緒に、つくった平仮名を読んだり、形について話したりする。



・「この線は上を向いているね。」などと、つくった平仮名の形の特徴について、子どもと一緒に確認する。

【文字片カードを重ねて平仮名をつくる】（見本の台紙あり）

（1）つくる平仮名を確認する。

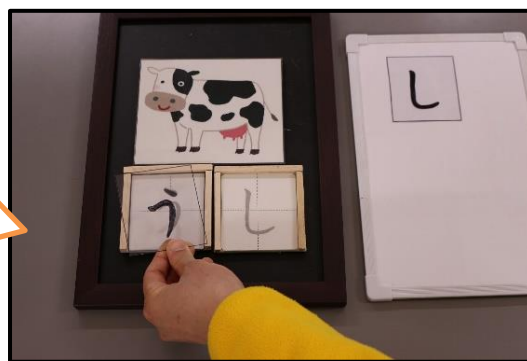
- ・教材を提示し、「文字片カードを重ねて『うし』の平仮名をつくってみよう。」と子どもに伝える。



- ・重ねることで平仮名をつくることができるよう、文字片カードは、透明なシートで用意する。

（2）「う」「し」の文字片カードを重ねて平仮名をつくる。

- ・子どもは、見本の台紙を手掛かりに平仮名をつくる。



- ・文字枠を用いることで、文字片が正しい位置に収まるようにする。

- ・文字片を重ねる際は、「う」「し」の順に重ねていくよう言葉掛けする。

（3）つくった平仮名を読む。

- ・子どもは、教師と一緒に、つくった平仮名を読んだり、形について話したりする。



- ・文字片のマス目の中の位置や重なり方などについて、子どもと一緒に確認する。

（見本の台紙なし）



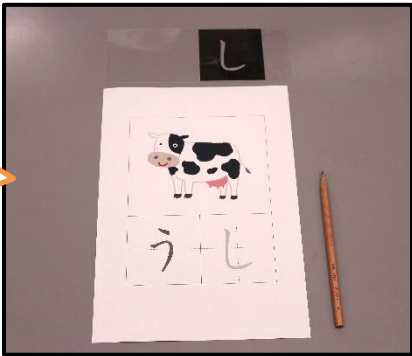
- ・子どもが、見本の台紙がある状況で確実にできるようになったら、見本の台紙がない状況で平仮名をつくる学習に取り組みます。
- ・左の写真のように、文字枠のマス目に十字リーダーの台紙を入れておくと、マス目の中の文字片の位置が分かりやすくなります。

題 材	平仮名を書く
ねらい	マス目の中に平仮名を書く。
指導内容	平仮名をなぞったり書いたりする。 例：「うし」

・子どもが読むことができ、その表す内容を理解している言葉を題材に、平仮名を書く学習に取り組みます。読む学習と関連させながら、自分がつくった単語に使われている平仮名を書くようにするなど、子どもが書いている内容を十分理解して取り組むことができるようにします。

(1) 絵の名称を確認する。

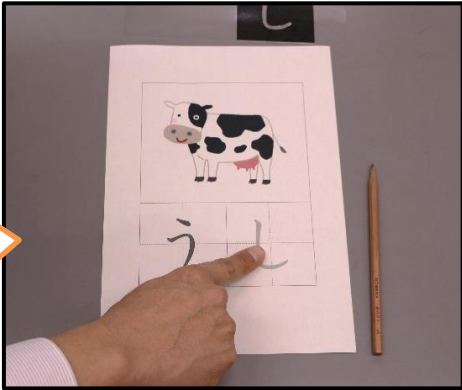
・プリントを提示し、絵の名称を子どもと確認する。



・書きやすい平仮名から学習することもできるが、子どもの書こうとする意欲を高めていけるよう、書きたい平仮名を題材にするとよい。

(2) 教師が平仮名をなぞるのを見る。

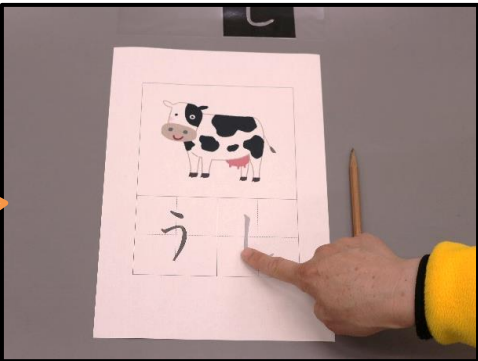
・「うしの『し』を書くよ。始めに先生が指でなぞるから見ててね。」と伝え、指で「し」をなぞる。



・子どもが教師の手の動きを目で追っていることを確認し、声を出して平仮名を読みながらゆっくりなぞる。

(3) 平仮名を指でなぞる。

・「『し』をなぞってみよう。」と子どもに伝える。
・子どもは指で「し」をなぞる。

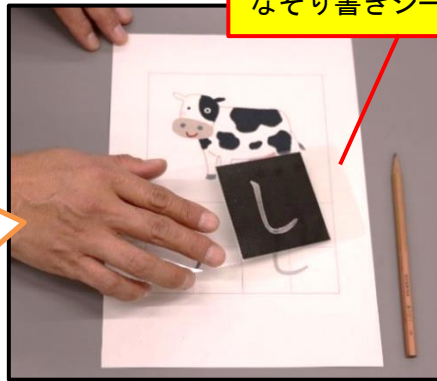


・子どもが指で平仮名をなぞる動きに合わせて、教師が声を出して読む。

(4) なぞり書きシートを使って書く。

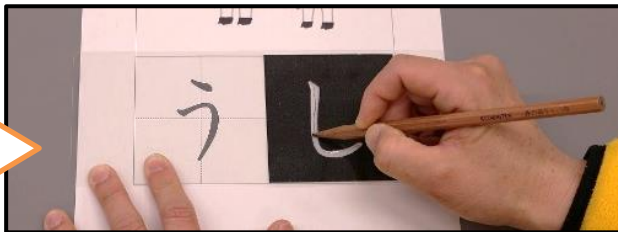
なぞり書きシート

- ・なぞり書きシートを平仮名の位置に合わせて置く。
- ・「『し』を書いてみよう。」と子どもに伝える。



- ・なぞり書きシートは、プリントの文字やマス目の大きさに合わせ、ラミネート加工した画用紙を文字の形にくり抜いて作成する。

- ・子どもは、なぞり書きシートのくり抜いた平仮名に沿って、筆記具でなぞり書きする。

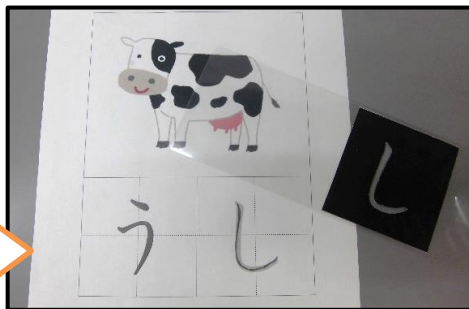


- ・なぞり書きシートを使うことで、筆記具を調整して書くことができる。

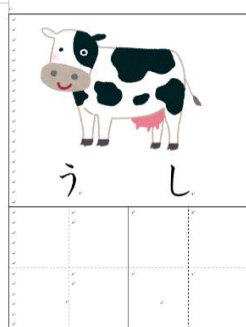
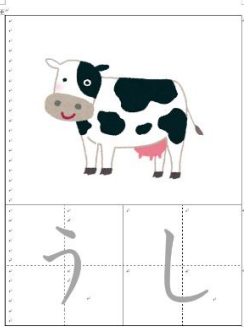
- ・筆記具は、子どもの持ちやすい太さのものを用意する。
- ・子どもが書く手の動きに合わせて、「すー」「ストップ(ぴたっ)」「くるん」など言葉を添え、動きを調整しながら書くことができるようにする。
- ・書く動きによって、紙やシートが動いてしまう場合は、教師が手で押さえるようにする。

(5) 書いた平仮名を見る。

- ・「書いた平仮名を見てみよう。」と子どもに伝える。
- ・子どもはなぞり書きシートを外し、書いた平仮名を見る。



- ・書いた平仮名の形やマス目の中の位置などについて子どもと一緒に確認する。



- ・子どもが確実に書くことができるようであれば、なぞり書きシートを外してよいか子どもに確認します。
- ・なぞり書きシートを外した際は、左の写真のように、薄く書かれた平仮名をなぞったり、見本を手掛かりに書いたりします。
- ・子どもの実態に応じて、書くことのできる平仮名を増やしていきます。

参考資料

特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領

知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校 小学部国語科の目標及び内容

【目 標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。
学びに向かう力・人間性等	言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

【各段階の目標】

段階 目標	1 段階	2 段階	3 段階
知識・技能	日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。
思考・判断・表現	言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。
学びに向かう力・人間性	言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

【内 容】

知識・技能

		1 段階	2 段階	3 段階
言葉の特徴や使い方	言葉の働き	・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。	・身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。	・身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付く。
	話し言葉 書き言葉		・日常生活でよく使われている平仮名を読む。	・姿勢や口形に気を付けて話す。 ・日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知る。
	語彙	・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。	・身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れる。	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付く。
	文・文章			・文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知る。
	音読			・正しい姿勢で音読する。
情報の扱い方	情報と情報との関係			・物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解する。
	情報の整理			・図書を用いた調べ方を理解して使う。
我が国の言語文化	伝統的な言語文化	・昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむ。 ・遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れる。	・昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむ。 ・遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむ。	・昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむ。 ・出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れる。
	書 写	・いろいろな筆記具に触れ、書くことを知る。 ・筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知る。	・いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむ。 ・写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付ける。	・目的に合った筆記具を選び、書く。 ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書く。
	読 書	・読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつ。	・読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつ。	・読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知る。

思考・判断・表現

○聞くこと・話すこと

	1段階	2段階	3段階
内容の把握	<ul style="list-style-type: none"> 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりする。 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりする 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取る。
話題の設定	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験したことなどについて、伝えたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考える。
構成の検討			<ul style="list-style-type: none"> 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりする。
表現		<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使う。
話合い			<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付ける。 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりする。

○書くこと

	1段階	2段階	3段階
題材の設定 情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集める。
構成の検討			<ul style="list-style-type: none"> 見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考える。
記述	<ul style="list-style-type: none"> 文字に興味をもち、書こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書く。
推敲			<ul style="list-style-type: none"> 書いた語句や文を読み、間違いを正す。
共有			<ul style="list-style-type: none"> 文などに対して感じたことを伝える。

○読むこと

	1段階	2段階	3段階
内容の把握	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像する。
構造の把握	<ul style="list-style-type: none"> 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉える。
精査・解釈	<ul style="list-style-type: none"> 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりする。
考えの形成	<ul style="list-style-type: none"> 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりする。

参考文献

- ・文部科学省（平成 29 年）「特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領」
- ・文部科学省（平成 30 年）「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)」
- ・文部科学省（平成 23 年）「こくご☆ こくご☆☆ こくご☆☆☆教科書解説」
- ・文部科学省（平成 29 年）「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編」
- ・栃木県教育委員会（平成 31 年）「特別支援学校教育課程編成の手引〔小学部・中学部〕」
- ・進 一鷹（平成 17 年）「障害児のためのステップアップ授業術 6 <ことば・文字・数> 基礎学習の教材づくりと学習法」明治図書
- ・進 一鷹（平成 22 年）「知的障がい・自閉症・学習障がいの子どもへの学習支援―<ことば・文字・数>の学習と指導の実際―」明治図書
- ・進 一鷹（平成 25 年）「学習につまずきのある子どもの指導」星雲社
- ・立松英子（平成 21 年）「発達支援と教材教具 子どもに学ぶ学習の系統性」ジアース教育新社
- ・中野尚彦・中村保和 他（平成 30 年）「研究紀要『学習の記録』第 29 号」前橋こどものへや、太田こどものへや
- ・土谷良巳（平成 27 年）「上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要 知的障害を伴い重度の障害のある子どもの『課題学習』―『見本合わせ法』に関する実践的再考―」
- ・林 邦雄 他（平成 5 年）「学習レディネスシリーズ 1 読みを育てる」コレール社
- ・細村迪夫 他（平成 5 年）「学習レディネスシリーズ 2 書きを育てる」コレール社
- ・宮城武久（平成 25 年）「障害がある子どもの文字を書く基礎学習―ひらがな・漢字の書字指導―」学研教育出版
- ・水口 浚（平成 7 年）「障害児教育の基礎」ジエムコ出版
- ・水口 浚 他（平成 18 年）「一人ひとりの子どもに学ぶ 教材教具の開発と工夫」学苑社
- ・重度・重複障害児指導研究会（昭和 54 年）「課題学習の指導」岩崎学術出版社
- ・栃木県総合教育センター（平成 29 年）「特別支援学校(知的障害)における教科指導の充実―文部科学省著作教科書を活用した算数科―〔数と計算(数量の基礎) 小学部 1～2 段階〕」

◇指導助言者 ※敬称略

- ・群馬大学共同教育学部特別支援教育講座 准教授 中村 保和（令和元年～2年度）
- ・県教育委員会事務局特別支援教育室 指導主事 赤堀 雅史（令和元年度）
- ・ ” 指導主事 川中子靖代（令和2年度）

◇研究協力委員 ※敬称略

- ・県立栃木特別支援学校 教諭 深津沙緒里（令和元年～2年度）
- ・ ” 教諭 長谷部康太（令和元年～2年度）

※本資料は、当センターWebサイトよりダウンロードできます。

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/sodan/cyosa/cyosa-r02.htm>

（QRコードからも御覧いただけます。）



特別支援学校(知的障害)における国語科の指導の充実
～平仮名の指導～

発行 令和3(2021)年3月
栃木県総合教育センター 教育相談部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7210 FAX 028-665-7212
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

